

つり環境ビジョンコンセプトに基づく
LOVE BLUE
事業報告書
2017

～全国に広がる感謝の輪～



LOVE
BLUE

地球の未来を

つり環境ビジョン

LOVE BLUE 事務局

LOVE BLUE 事業報告書 2017

～全国に広がる感謝の輪～



I 参加企業一覧

II LOVE BLUE 事業の取り組み

III LOVE BLUE TOPICS

IV 事業報告

○ 水辺をキレイに

- ・プロダイバー水中クリーンアップ活動
- ・地球環境基金企業協働プロジェクト LOVE BLUE 助成

○ サカナを増やそう

- ・専門機関と連携した放流

○ フィールドを広げよう

- ・水産庁後援 内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）

巻末 松下和夫 京都大学名誉教授

日本の釣り文化の醸成と LOVE BLUE 事業の役割
公式 FACE BOOK・公式ホームページのご案内

未来へ残したい美しい地球の つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業

ア

(株)ア・ネットコトブキヤ
 (有)アイビーライン
 (株)アイビック
 アキレス(株)
 (有)アクティブ
 アサヒレジャー(株)
 アチック
 (株)アピア
 (株)アムズデザイン
 (有)アリゲーター技研
 (株)アンダラズ
 アンダラズサポートシステム(株)
 アンダラズデザイン(株)
 アンダラズリパブリック(株)
 (有)アングル
 (株)イシグロ
 (有)イシナダ釣工業
 五十鈴工業(株)
 (株)issei
 ING.co.,
 INFINITE SEEDS MAKERS(株)
 ヴァンフック(株)
 (株)ウイン インコーポレーテッド, ジャパン
 (株)ウイング
 植田漁具(株)
 (株)ウォーターハウス
 (有)ウォーターランド
 (株)魚矢
 (株)宇崎日新
 ウチダトレーディング・モリックスジャパン
 (株)エイチ・エー・エル
 (株)エイテック
 (株)ESTATE
 (株)エバーグリーンインターナショナル
 エフ・ケイ
 (有)エムワントレーディング
 オウルジーンズ
 (有)オー・エス・ピー
 OSGS
 (株)オーナーばり
 (株)オーパデザイン
 (株)オオモリ
 (有)オジーズ
 (株)小野由

(有)オフィス・ユーカリ
 (株)オフィスアクセル
 (株)オリムピック
 (株)オンスタックル

カ

(株)鶴祥
 景山産業(株)
 (株)カズマーク
 (株)カツイチ
 (有)加藤精工
 カハラジャパン(株)
 (有)カビイ
 (株)がまかつ
 (有)カラズインターナショナル
 (株)川せみ針
 (有)ガンクラフト
 (有)関門工業
 (株)キサカ
 (株)キザクラ
 (株)KILLER HEAT
 (株)クリーブラッツ
 (株)Grayhound
 クレハ合織(株)
 グローブライド(株)
 (株)ケイテック
 (株)ゲインコーポレーション
 (株)ケーター関東
 ゲーリーインターナショナル(株)
 (株)KIOB
 ケンインターナショナル(株)
 (株)剛樹
 興和(株)
 (株)ゴーセン
 (一社)コニー
 (株)コヒナタ

サ

(株)34
 (有)財津釣具
 (有)サウスウインド
 栄通商(株)
 櫻井釣漁具(株)
 (株)ささめ針
 (株)ザップ
 (有)サニー商事
 サポートエンジニアリング フラー

サンヨーナイロン(株)
 (株)サンライン
 (株)ジークラック
 (株)シーフロアコントロール
 (株)シマノ
 (株)清水
 (株)下田漁具
 (株)ジャクソン
 (株)ジャッカル
 NPO 法人 ジャパンゲームフィッシュ協会
 (株)ジャンプライズ
 (株)上州屋
 (株)スーパー・ビー
 skillful
 (株)スズミエンタープライズ
 スタジオディーピーアイ(株)
 スタンキーパー (株)
 スティールハント
 (株)スナガ
 (株)スポーツライフプラネット
 (株)スミス
 征興産業(株)
 (株)清光商店
 (株)ゼニス
 (株)ゼファーボート
 (株)双進

タ

第一精工(株)
 大同(株)
 大同石油(株)
 ダイトウブク(株)
 太陽産業(株)
 (株)ダイレイ
 タカ産業(株)
 高階救命器具(株)
 (株)タカタ
 (株)タカミヤ
 (株)タックルハウス
 谷山商事(株)
 タブリエ・コミュニケーションズ(株)
 (株)タミキジャパン
 (株)ダン
 痴虫
 中央漁具(株)
 (株)津田商会

ために 今 私たちは行動します

250社・団体参加(2018年3月31日現在 50音順)

(株)ツネミ	FIELD BACK	(株)ヤマリア
つりー(株)	フィッシュ・アンド・ハート(株)	(株)ヤリエ
(株)釣研	Fishman(株)アレア	ユニチカ(株)
(株)釣りビジョン	プエブロ(株)	(有)よつあみ
(株)つり人社	(株)フォレスト	ラ
(株)DRT	富士工業(株)	(株)ラインシステム
D-CLAW	富士灯器(株)	(有)ラガチャイナ
(株)DSTYLE	(株)フジノライン	落花生
(株)ディーパース・ファクトリー	(株)フジワラ	(株)ラッキークラフト
TICA JAPAN(株)	(株)藤原辰次商店	Rattytwister
(株)ティムコ	(株)ブリーデン	ラパラ・ジャパン(株)
(株)テクノス	ブルーブルー(株)	REALS
(株)デプス	プロズワン	(株)リガーレ
(株)デュオ	(株)プロックス	(株)リコーサーバンス
(株)天龍	ベイトプレス	(株)リチャーズ
(株)トアルソン	BeveL	リトルジャック(株)
東邦産業(株)	(株)ベルモント	(有)リトルプレゼンツ
東レ・モノフィラメント(株)	(株)北摂マリン	リミット
(有)トオヤ	Bottomup(株)	lure angle HAMA
(株)土肥富	BOREAS	ルアーショップ アンドウ
(株)TRYALL	(株)ボンバダアグア	LURESHOP riprap
DRANCKRAZY(株)	マ	+ Rooms'
DreemUP	(株)マガジン・マガジン	(株)ルミカ
ドリームエクスプレスルアーズ	マルキュー(株)	RAID JAPAN(株)
ナ	丸米商事(株)	(株)レイン
(株)内外出版社	(株)マルシン漁具	LEGAME
(株)ナカジマ	MARUTE	レジットデザイン(株)
ニッコー化成(株)	(株)まるふじ	LESS is MORE
(株)NOIKE	mibro	(有)ロデオクラフト
ハ	(株)ミヤマエ	ワ
(株)ハイテックボート	(株)ムカイフィッシング	(株)ワールドスポーツ
ハイドアップ(有)	(株)名光通信社	WILDFINS
バスディ(株)	明邦化学工業(株)	(株)脇漁具製作所
(株)バスディジャパン	(有)メガテック	(株)和田製作所
(株)林釣漁具製作所	メガバス(株)	(株)ワトスワクトリー
(株)ハヤブサ	メジャークラフト(株)	
はり秀(株)	(株)モーリス	
(株)ハリミツ	(有)もちづき釣具	< 寄付企業 >
(有)HMKL	(株)もりげん	
HAND MADE LURE HIRO	moriken speed bite	- 2017年度 -
(株)ビーエムオー・ジャパン	ヤ	(有)エムワントレーディング
ヒットコンポジット(株)	(株)ヤマイ	
ピュア・フィッシング・ジャパン(株)	山田電器工業(株)	
(有)ヒロカコーポレーション	山豊テグス(株)	
琵琶湖遊漁船業協会	山本光学(株)	



2013年4月 事業開始「環境・美化マーク」



2015年6月
環境大臣より感謝状を頂く
右：環境省 小林正明
事務次官(当時)
左：小島忠雄
LOVE BLUE 委員長



2013年4月 水中清掃事業開始



2015年7月 茨城県潤沼のラムサール条約登録に貢献



2013年 栽培事業の専門機関と連携した放流事業開始



2015年9月 徳島県の小学校で環境教育授業を実施



2015年4月
地球環境基金企業協働プロジェクト第1号
水辺の環境保全を担うNPO等助成開始



2016年4月 千葉県南房総市 石井裕 市長を表敬訪問
左：石井裕 市長 右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2015年6月 エコライフ・フェア2015 望月義夫 環境大臣ブース来訪
中央：望月義夫 環境大臣(当時)
左：当工業会 大村一仁 副会長 右：当工業会 小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2016年5月
G7 伊勢志摩サミットと連携



2016年5月
三重県鳥羽市
木田久主一 市長を
表敬訪問

左:木田久主一 市長(当時)
右:当工業会 島野容三 会長



2017年6月
エコライフ・フェア 2017
関芳弘環境副大臣
ブース来訪

左:関芳弘
環境副大臣(当時)
右:小島忠雄
LOVE BLUE 委員長



2016年6月 エコライフ・フェア2016 丸川珠代 環境大臣ブース来訪
中央:丸川珠代 環境大臣(当時) 左:大村一仁 副会長 右:小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2017年9月
第38回全国豊かな海づくり大会~高知家大会~と連携



2016年7月
第36回全国豊かな海づくり大会~やまがた~と連携



2017年9月
徳島県の小学校で環境教育授業を実施



2017年1月 環境省 小林正明 事務次官を表敬訪問
中央:小林正明 事務次官(当時) 左から松下和夫 京都大学名誉教授、
大村一仁 副会長、島野容三 会長、小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2018年3月
水産庁後援 内水面の釣り場拡大事業「ワカサギ」開始
左:鳴沢湖への卵孵化施設整備の報告のため 富岡賢治 高崎市長を表敬訪問
右:長野県には、軽自動車にも積載可能な可搬型の卵孵化施設を整備



2017年5月
茨城県龍ヶ崎市 中山一生 市長を表敬訪問
左:中山一生 市長 右:小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2018年3月
東京湾口で実施した専門機関と連携した放流の経験をもとに放流事業を全国展開

Japan Fishing Show 2018 in YOKOHAMAにて放流式典を開催

2018年のジャパンフィッシングショーでは、新たに開催理念を「“釣り文化”を創造し、健やかな未来を育む。」と位置づけ、釣り界全体で取り組むLOVE BLUE事業を広く一般にご紹介するため、(一社)日本釣用品工業会 島野容三 会長並びに(公財)日本釣振興会 高宮俊諦 会長を始めご来賓の皆様や未来を担う子どもたちと一緒に、放流式典を実施致しました。

2017年度



ジャパンフィッシングショーの会場である神奈川県横浜市のパシフィコ横浜に隣接する臨港パークにて、カサゴを放流しました。



当日放流されたカサゴ



放流式典にて挨拶を行う小島委員長

政府主催「海の日行事“海と日本プロジェクト”」 総合開会式に正式招待

2017年度



5年目を迎えた、社会貢献事業として進める、LOVE BLUE 事業のこれまでの取り組みから、「海の日」に、海と日本人の絆を想い、次世代を担う子供たちに海の恵みを引き継ぐための機会として開催された同式典・記念祝賀会へ、当工業会が招待を頂きました。

当日は、石井啓一 国土交通大臣、松本純 内閣府海洋政策担当大臣、笹川陽平 日本財団会長らが挨拶に立ち、小島忠雄 LOVE BLUE 委員長らが出席し、政府関係者や海事行政担当者の皆様へ今後の一層の連携のためにこれまでの事業報告などを行って参りました。

左から 国土交通省海事局 蒲生篤実 局長
小島忠雄 LOVE BLUE 委員長
内閣府総合海洋政策推進事務局 羽生一郎 局長
国土交通省海事局 検査速度課 重富徹 課長



環境省主催 エコライフ・フェアに出展

LOVE BLUE 事業は、毎年環境の日（6月5日）の近辺の土曜日及び日曜日に東京都渋谷区の代々木公園にて、環境省が主催する、エコライフ・フェアに2015年から毎年出展しています。環境への関心の高い来場者や、環境保全に取り組む企業や団体の皆様へ水辺の環境保全を志向する LOVE BLUE 事業が取り組む、社会貢献活動のPRを行い、また関係を構築しています。

本年度は、「つりの楽しさが広がることで水辺環境の向上につながります」をテーマに、これまでの社会貢献活動としての実績をPRしました。



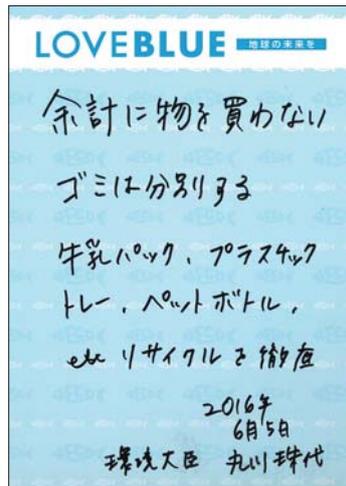
渡嘉敷環境副大臣に LOVE BLUE 事業の説明を行いました。(2018年)



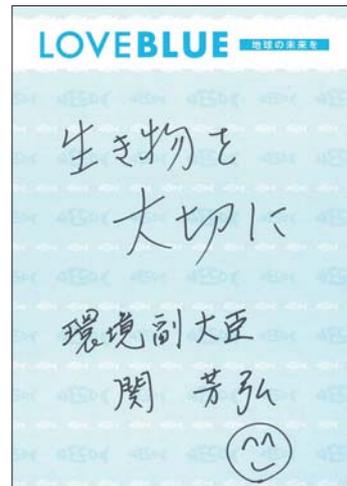
丸川環境大臣（当時）に環境への取り組みのメッセージを残して頂きました。(2016年)

中央：丸川珠代 環境大臣（当時） 左：大村一仁 当工業会 副会長 右：小島忠雄 当工業会 顧問

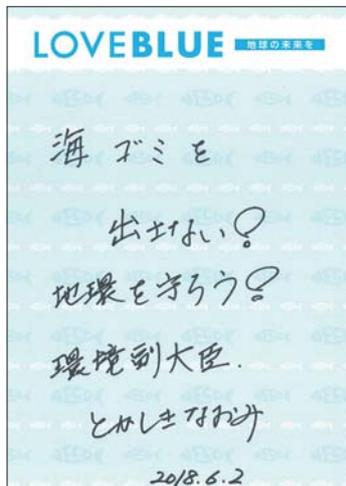
当工業会ブースにお越し頂いた環境大臣・副大臣・大臣政務官の皆様へ環境保全へのメッセージを頂きました。



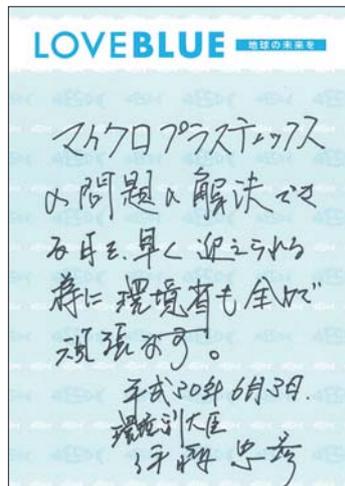
2016年 丸川 珠代 環境大臣 (当時)



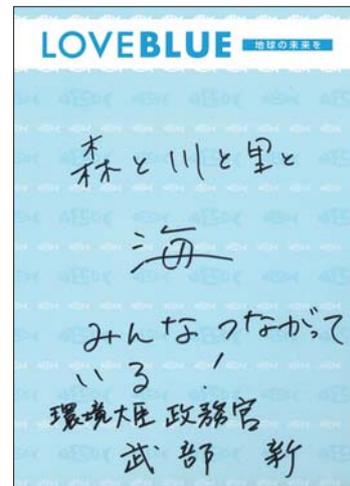
2017年 関 芳弘 環境副大臣 (当時)



2018年 渡嘉敷 奈緒美 環境副大臣



2018年 伊藤 忠彦 環境副大臣



2018年 武部 新 環境大臣政務官



環境保全に取り組んでいることを書いて頂き、ジャパンフィッシングショーの当工業会ブースで展示しています。(2016年)



当工業会ブースを訪れて頂いた皆さんには、ルアー釣りを楽しんで頂きながら、事業紹介のパネル・映像をご覧頂きました。(2018年)

つりの楽しさが広がることで
水辺環境の向上につながります



このマークが表示された商品の売上の一部が環境保全活動などに利用されています

2015年度
2016年度
2017年度
2018年度

LOVE BLUE 事業水中クリーンアップ活動 G7 伊勢志摩サミットへ貢献

G7伊勢志摩サミット 5月26日(木)・27日(金)

LOVE BLUEは G7伊勢志摩サミットを
水中クリーンアップ活動で応援します。

2016年度



写真提供 伊勢志摩国立公園協会

木田久主一 鳥羽市長を 島野容三会長が表敬訪問

2016年5月19日(木)10:00～ 三重県鳥羽市役所市長室

2016年5月19日、G7 伊勢志摩サミットまであと7日となった、三重県鳥羽市・鳥羽市役所本庁舎内、鳥羽市長室へ、島野容三会長が表敬訪問しました。

G7 伊勢志摩サミットへ連なる LOVE BLUE 事業の「格」

島野会長 (以下会長)：サミット前の大変お忙しい時期にお時間を頂きありがとうございます。

あらためまして、市長直々のお声かけで、鳥羽港の清掃の機会を頂戴し、さらには、G7 伊勢志摩サミットへのおもてなし大作戦に加えて頂くことができました。我々としたしましては、これまで LOVE BLUE 事業として取り組んで参りました社会貢献活動に、ひとつの大きな「格」をつけて頂くことになりました。これまでのご配慮に心から御礼を申し上げます。



鳥羽市 木田久主一市長と

釣りに対するイメージが大きく変わる

木田市長 (以下市長)：こちらから御礼のごあいさつに伺うべきところ、鳥羽市へお運び頂き、ありがとうございます。鳥羽は海女と真珠のふるさとです。私たちが大切にしている海をきれいにして頂いていることに心から感謝申し上げます。

市長：多くの企業が志を同じくして参加されていることが本当に素晴らしい。釣りに対するイメージが大きく変わってくると思います。





鳥羽市 木田久主一市長（当時）

地域経済へ釣りがもたらす好影響

市長：鳥羽市はホテルなどの産業がありますから、釣りは大変ありがたい。

市長：LOVE BLUE のロゴもとても良いですね。鳥羽市のロゴは海女を三代続けてされている娘さんが潜っているところをデザインしたものなんです。

碧い生命の地球の環境保全が LOVE BLUE の志

会長：私たちが取り組む社会貢献事業を LOVE BLUE 事業と呼んでおりまして、碧い生命の地球、その環境の保全を大きな志として、今年で四年目を迎え、水中クリーンアップ活動をこの社会貢献事業の中心に据えながら、2015年度は39か所で150日、全国各地で活動を進め、環境大臣から感謝状を頂くなど、お陰様で、少しずつではありますが社会的な評価を頂けるようになって参りました。

そして最後に——

市長：今後とも、引き続きご尽力をお願いしたい。どうぞ宜しくお願いします。

会長：これからも業界を挙げて LOVE BLUE 事業を進めて参ります。是非ご協力を宜しくお願いします。



地域のみなさまに喜ばれる LOVE BLUE

この後、島野会長は、水中クリーンアップ活動の鳥羽市の担当者が在籍する、鳥羽マリンターミナルにある鳥羽市定期船課の齋藤貞之課長へ御礼の挨拶に訪れました。

齋藤課長：このたびは、鳥羽市の離島のライフラインである定期船の発着所周辺という安全管理が求められる場所の水中クリーンアップ活動をプロダイバーにより実施して頂きまして、本当に感謝しております。以前、水中のごみが定期船のプロペラに巻き付き、離島のライフラインに大きな影響が出たこともありました。一般社団法人日本釣用品工業会から三重県を通じて、水中クリーンアップ活動のお申し出を頂きましたこと心から御礼申し上げます。鳥羽の海と人々の生活に大きく寄与して頂きました。

会長：こちらこそ、皆様からのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。これからも頑張ってお参りますのでどうぞ宜しくお願いします。

[三重県鈴木英敬知事からのお礼状]

お礼状

一般社団法人日本釣用品工業会 様

伊勢志摩サミットへのご支援とご協力、ありがとうございました。皆さまからの温かいご支援とご協力のおかげで、伊勢志摩サミットは、大きな成果とともに、無事閉幕しました。心から感謝を申し上げます。

協賛・応援・寄附などのご支援をいただくとともに、おもてなし大作戦、外国語案内ボランティア、ジュニア・サミットなど様々な機会を通じて、産・学・民・官が一体となり、素晴らしい力を発揮できたことは、私たち全員の誇りです。

三重県では、伊勢志摩サミットの資産（レガシー）を三重の未来に生かしていくため、サミットの成果をチャンスとして様々な事業を展開していきます。

引き続き皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いします。

平成28年6月

伊勢志摩サミット三重県民会議会長

三重県知事 鈴木 英敬



島野容三会長



鳥羽市定期船課 齋藤貞之課長と

継続的な社会貢献としての LOVE BLUE 事業を評価

2016年度



南房総市 石井裕市長

南房総市からのご要望に感謝

小島委員長（以下委員長）：2014年6月に野島漁港で水中クリーンアップ活動を行わせて頂いて以来、ご縁を頂き、ありがとうございます。翌7月の南房総白浜海女まつりにおいて、公式に参列させて頂いた際、石井市長にはご挨拶させて頂き、その節は、大変お世話になりました。

石井市長（以下市長）：こちらこそ。今年度も、乙浜漁港の水中清掃を行って頂いており、ありがとうございます。ところで LOVE BLUE 事業の水中クリーンアップ活動は、全国規模で活動されているそうですね。

委員長：はい、活動地域に偏りが出ないように、行政の皆様と連携させて頂きながら、全国規模でバランス良く水中クリーンアップ活動を行うようにしています。千葉県からは、事業開始の年度からご縁を頂き、特に南房総市は、初期の段階から早く水中クリーンアップ活動のご要望を頂きました。本当に感謝しています。

市長：乙浜漁港の他には、野島漁港と富浦漁港もお世話になっていますね。こちらこそ、感謝しています。

委員長：乙浜漁港では、今朝から水中クリーンアップ活動を行っています。今年度も活動の場を与えて頂き、南房総市との温かいご縁をうれしく思っています。私たちは釣用品メーカーの全国団体組織です。環境保全に関しては業界として釣り人に向けて啓蒙活動を行っていますが、まだまだ地球の環境に負担をかけてしまうこともあると思っています。水中クリーンアップ活動はもちろん、これからは地球環境のために、さまざまな活動を行いたいと思っています。



石井裕 南房総市長を LOVE BLUE 委員会 小島忠雄委員長が表敬訪問

2016年4月18日(月)14:00 ~ 千葉県南房総市役所市長室

全国へ広がる社会的な信頼を 頂けたことに感謝

委員長：2014年度に南房総市の野島漁港の水中クリーンアップ活動を実施させて頂き、第50回南房総白浜海女まつりに公式にご招待頂いた社会的な信頼をもとに、LOVE BLUE 事業の水中クリーンアップ活動を全国に広げることができました。しかも1回だけで終わることなく、継続して水中クリーンアップ活動を実施させて頂いていることに関しても、改めてお礼申し上げます。1回の水中クリーンアップ活動では、キレイにできる範囲が限られています。一度清掃した場所も、時間が経つと再びごみが溜まることもある。継続して活動させて頂くことが大切だと考えています。まだまだ規模は小さいですが、釣り業界として環境に目を向けてこれからも活動を続けていこうと思っています。



LOVE BLUE 委員会 小島忠雄委員長

LOVE BLUE 事業を評価

委員長：水中クリーンアップ活動の他にも、昨年度から「つり環境ビジョン助成」という活動を始めています。これは独立行政法人環境再生保全機構における地球環境基金企業協働プロジェクト第1号として始まったもので、水辺の環境保全を考えるNPOなど諸団体を全国規模で支援するものです。昨年度は、8団体を助成いたしました。その活動を評価頂き、環境大臣から感謝状を授与されました。

市長：それはすごいですね。さまざまな活動をされている中で、私たちの南房総市を水中クリーンアップ活動の場として選んで頂いてうれしく思っています。水の中は自分たちでは、なかなか清掃できないので、プロのダイバーの方々に水中を清掃頂けるのは、とてもありがたいです。





市長：南房総市は三方を海に囲まれているので、多くの釣り人が訪れます。南房総市の観光シーズンは冬なのですが、釣り人の皆さんには年間を通して、楽しんで頂いているようです。

今後も継続的な実施の要望

市長：南房総市での活動を引き続き宜しく願います。

委員長：こちらこそ、宜しくお願いします。私たちの活動は、やり続けることに意味があります。これからも行政の皆様、地域の皆様にご理解とご協力を頂きながら活動を続けていきたいと思えます。本日はお忙しい中、ありがとうございました。



環境保全活動に大きく貢献 環境大臣から感謝状

参加企業の皆様のご理解とご協力、そして釣り人の皆様一人一人の力を合わせて展開する LOVE BLUE 事業は、2015 年度、新たに本事業の一環として、独立行政法人環境再生保全機構と連携し、同機構による「地球環境基金 企業協働プロジェクト」の第1号「つり環境ビジョン助成」をスタートさせました。

この事業は、日本国内で水辺の環境保全活動等を行う NPO・NGO 等の団体に対し、その活動を支援する為の助成で、2015 年度は、全国 8 団体を支援しました。上記の事業を踏まえた、つり環境ビジョン助成の環境保全活動に対し、「環境の日」である 6 月 5 日付にて、環境大臣より感謝状をだされ、そして 6 月 10 日（水）、LOVE BLUE 委員会小島忠雄委員長が代表して、環境省を訪問し環境省総合環境政策局小林正明 局長（当時）より授与されました。



環境省総合環境政策局 小林正明 局長（当時）と

環境省表敬訪問

LOVE BLUE 事業が取り組む社会貢献事業について、これまで積み重ねてきた実績等をご説明するため、2017年1月20日金曜日、環境省へ表敬訪問を行いました。

2016年度



中央：小林正明環境事務次官、左から松下和夫京都大学名誉教授、大村一仁副会長、島野容三会長、小島忠雄顧問

島野会長より、「当初は釣り場の清掃から始めた事業ですが、今ではLOVE BLUE 事業として、例えば全国の各自治体を通じて、各地の皆様からプロダイバーによる水中クリーンアップへのご要望をお寄せ頂けるようになるなど、多くの皆様に喜んで頂ける社会貢献事業となって参りました。昨年（2016年）のG7伊勢志摩サミットでもプロダイバーによる水中クリーンアップ活動をお役立て頂くなど、様々なご要望にお応えしております。LOVE BLUE 事業は、参加企業が全ての釣用品に『環境・美化マーク』を表示し、その

売り上げの一部を自主財源として取り組んでいるものです。これからも御省と連携しながら地球環境のためにより一層努めて参りたいと思います。」と当事業について説明を行いました。



環境省小林正明事務次官を 島野容三会長、 大村一仁副会長、小島忠雄顧問、 松下和夫京都大学名誉教授、柿沼清英理事が表敬訪問

2017年1月20日(金) 環境省事務次官室

環境省 小林事務次官からは「今また温暖化や世界中で水の危機が起こるのではといわれる中、世界の中でも水の豊かな日本で気候の変動へ耐えて行けるような取り組みを関係省庁へ呼びかけながらご協力を頂いているとこ

ろです。その意味で、水への関心を高める取り組みという観点でも、皆様の取り組まれている社会貢献事業、大変すばらしいと思います。今後ともぜひ頑張ってください。」などのお話がありました。

2016年度



環境省事務次官室にて

全国に広がる感謝の輪 ～水中クリーンアップ活動編～

碧い生命の地球、その環境保全を大きな志として、LOVE BLUE事業では、公平性の観点から全国を7ブロックに分け、当工業会実施の客観的なアンケート結果を踏まえ、全国の各都道府県・市町村、漁業者などの皆様からのご要望を基に実施場所の選定を行い、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動を実施させて頂いています。

プロダイバーによる水中クリーンアップ活動に際しては、陸上と水中の常時無線交信設備を装備するなど、万全の安全管理を徹底し、関係機関への許可・届出・周知等を整えて実施しております。また、回収したゴミは産業廃棄物として責任をもって適切に処分しています。

LOVE BLUE事業で実施する、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、2013年度の事業開始より2017年に至るまで、5年間累計31道府県 161箇所634日実施しています。

2013年度
2014年度
2015年度
2016年度
2017年度

ブロック	都道府県	場所	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
			箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日
<中部・北陸地方：20日>			4	17	41	168	39	150	37	150	40	149
中部・北陸	愛知県	三河湖	1	3								
		入鹿池	1	3								
	富山県	六波寺海岸			1	5	1	5	1	5	1	3
		黒部漁港			1	4	1	3	1	3		
	石川県	名舟漁港			1	3.5	1	3				
		富来漁港			1	5	1	3	1	3		
		安宅漁港			1	5	1	3	1	3	1	5
		前波漁港					1	3	1	3		
	福井県	東尋坊・崎漁港									1	5
	岐阜県	長良川									1	4

ブロック	都道府県	場所	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
			箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日
<中国・四国地方：15日>			0	0	5	23	5	15	5	17	5	14
中国・四国	香川県	松山漁港			1	5						
		土庄港					1	3				
	徳島県	那佐港			1	3						
		由岐漁港					1	3	1	3		
		日和佐港									1	3
	愛媛県	佐田岬漁港			1	5	1	3	1	3		
		三机港			1	5	1	3	1	3	1	3
	鳥取県	松山港 (高浜地区)			1	5	1	3	1	3	1	2
		境港							1	5		
	高知県	宇佐漁港									1	3
岡山県	牛窓港									1	3	

ブロック	都道府県	場所	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
			箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日
<九州・沖縄地方：15日>			0	0	5	25	5	16	5	21	5	15
九州・沖縄	佐賀県	唐津港			1	5	1	3				
		伊万里港			1	5			1	3	1	3
		館浦漁港			1	5	1	3				
	長崎県	薄香湾漁港					1	2				
		生月漁港							1	3	1	3
	熊本県	八代港			1	5	1	3				
	沖縄県	名護漁港			1	5	1	5	1	5	1	3
		別府港							1	5		
	大分県	吹浦漁港									1	3
		山川漁港							1	5		
鹿児島県	枕崎漁港									1	3	

- 富山県
 - ・黒部漁港 (7月9日～13日)
- 石川県
 - ・安宅漁港 (6月27日～7月1日)
- 福井県
 - ・東尋坊・崎漁港 (7月3日～7日)
- 岐阜県
 - ・長良川 (10月3日～6日)

- 滋賀県
 - ・山田漁港 (10月17日～21日)
 - ・堅田漁港 (10月24日～28日)
 - ・木浜漁港 (10月31日～11月4日)
 - ・瀬田舟溜 (11月8日～11日)
 - ・針江大川舟溜・新川舟溜 (11月12日～14日)

- 岡山県
 - ・牛窓港 (9月25日～27日)

- 三重県
 - ・尾鷲港 (11月29日～12月3日)
- 京都府
 - ・宮津港 (3月20日～24日)
- 和歌山県
 - ・戸坂漁港・シモツビア일랜드 (11月22日～26日)

- 徳島県
 - ・日和佐港 (9月29日～10月1日)
- 愛媛県
 - ・松山港 (高浜地区) (9月15日～17日)
 - ・三机港 (9月12日～14日)
- 高知県
 - ・宇佐漁港 (9月20日～22日)

- 佐賀県
 - ・伊万里港 (8月27日～29日)
- 大分県
 - ・吹浦漁港 (9月6日～8日)
- 長崎県
 - ・生月漁港 (8月24日～26日)
- 鹿児島県
 - ・枕崎漁港 (9月1日～3日)

- 沖縄県
 - ・名護漁港 (6月3日～5日)

プロダイバー水中クリーンアップ 活動地域マップ



北海道

- ・十勝港 (7月25日～29日)
- ・厚田漁港 (8月1日～5日)
- ・浜益地区 (幌漁港) (8月8日・9日)
- ・浜益地区 (群別漁港) (8月10日～12日)



青森県

- ・高瀬川放水路 (5月23日～25日)

山形県

- ・鼠ヶ関港 (5月16日～19日)

宮城県

- ・長沼 (6月20日～22日)



茨城県

- ・漕沼 (7月15日)
- ・北浦 額賀船溜 (3月4日～8日)
- ・牛久沼 (3月10日～14日)

千葉県

- ・乙浜漁港 (4月4日～8日)
- ・富浦漁港 (4月11日～15日)

神奈川県

- ・平塚漁港 本港 (4月18日～22日)
- ・片瀬漁港 (4月25日～29日)
- ・大磯港 (5月9日～13日)

愛知県

- ・入鹿池 (10月10日～12日)

ブロック	都道府県	場所	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
			箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日
<北海道:15日>			0	0	3	15	3	15	4	15	4	15
北海道	道央	小樽港			1	5	1	5				
		浜益漁港							1	3		
		濃尾漁港							1	2		
		厚田漁港			1	5	1	5	1	5	1	5
		浜益地区 (幌漁港)									1	2
		浜益地区 (群別漁港)									1	3
道東		十勝港北区			1	5	1	5	1	5	1	5

ブロック	都道府県	場所	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
			箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日
<東北地方:10日>			0	0	7	24	4	14	3	15	3	10
東北	岩手県	岩洞湖			1	2						
		能代港			1	5						
	秋田県	米代川			1	1	1	1				
		酒田港			1	4.5	1	5				
	山形県	加茂港			1	3.5						
		鼠ヶ関港			1	4.5	1	3	1	5	1	4
	宮城県	仙台塩釜港			1	3.5	1	5	1	5		
		長沼									1	3
青森県		三沢市 高瀬川放水路							1	5	1	3

ブロック	都道府県	場所	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
			箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日
<関東地方:35日>			2	9	9	27	9	35	8	32	8	36
関東	群馬県	榛名湖	1	5	1	5						
		土浦市 (霞ヶ浦)	1	4	1	1						
		美浦村 (霞ヶ浦)			1	4	1	3				
	茨城県	阿見町 (霞ヶ浦)			1	3	1	5				
		がすみがうら市 (霞ヶ浦)					1	1				
		土浦市 (霞ヶ浦 大石田船溜)							1	1		
		鹿嶋市 (北浦 額賀船溜)									1	5
		茨城町 (漕沼)			1	2	1	2	1	1	1	1
		龍ヶ崎市 (牛久沼)			1	4	1	5				
	牛久市 (牛久沼)									1	5	
	千葉県	興津港			1	1						
		野島漁港			1	1						
		富浦漁港			1	5	1	5	1	5	1	5
	神奈川県	乙浜漁港			1	5	1	5	1	5	1	5
		茅ヶ崎漁港					1	5	1	5		
		平塚漁港 本港					1	5	1	5	1	5
		片瀬漁港							1	5	1	5
		大磯港									1	5

ブロック	都道府県	場所	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
			箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日	箇所	日
<近畿地方:35日>			1	5	7	31.5	7	35	7	33	10	37
近畿	滋賀県	吉川港 (琵琶湖)	1	5								
		早崎漁港 (琵琶湖)			1	1.5						
		八木浜漁港 (琵琶湖)			1	2						
		南浜漁港 (琵琶湖)			1	5						
		朝妻港 (琵琶湖)			1	3						
		能登川漁港 (琵琶湖)			1	5						
		木浜漁港 (琵琶湖)			1	5					1	5
		北山田漁港 (琵琶湖)					1	5			1	5
		知内漁港 (琵琶湖)					1	5				
		志那那港 (琵琶湖)					1	5				
		堅田漁港 (琵琶湖)					1	5			1	5
		長命寺漁港 (琵琶湖)					1	5				
		大溝漁港 (琵琶湖)					1	5				
		宇曾川漁港 (琵琶湖)								1	5	
		出在家舟溜 (琵琶湖)								1	5	
	沖之島漁港 (琵琶湖)								1	5		
	牧舟溜 (琵琶湖)								1	4		
	野村舟溜 (琵琶湖)								1	4		
	針江大川舟溜 新川舟溜 (琵琶湖)										2	3
	瀬田舟溜										1	4
	三重県	鳥羽港			1	10	1	5	1	5		
		熊野 二木島港							1	5		
	京都府	尾鷲港									1	5
宮津港										1	5	
和歌山県		戸坂漁港・シモツピアランド								2	5	

全国 **40** 箇所 **149** 日実施 (累計 **634** 日実施)

茨城県との連携 龍ヶ崎市長を表敬訪問

LOVE BLUE 事業は社会貢献事業として取り組むプロダイバーによる水中クリーンアップ活動について、2017年5月12日金曜日、茨城県龍ヶ崎市 中山一生市長へこれまでの活動への理解と協力に対して、LOVE BLUE 委員会 小島忠雄委員長らが龍ヶ崎市役所へ表敬訪問を行いました。



左：中山一生 龍ヶ崎市長、右：小島忠雄委員長

茨城県龍ヶ崎市中山一生市長へこれまでの活動への理解と協力に対して、小島忠雄委員長らが表敬訪問

2017年5月12日(金) 龍ヶ崎市役所

茨城県での LOVE BLUE 事業へご理解ご協力の御礼

小島忠雄委員長（以下委員長）：「本日は、お忙しい処、貴重なお時間を頂きましてありがとうございます。私どもは一般社団法人日本釣用品工業会と申しまして、釣用品メーカー125社の団体ですが、その会員企業のみならず、釣用品メーカーなど241社・団体と取り組む LOVE BLUE 事業について、茨城県では大変お世話になっておりまして、霞ヶ浦を始めとして、2015年にラムサール条約の登録湿地となられた、涸沼（ひぬま）や、御市の牛久沼でも、私どもの活躍の場を頂きましたこと、本当にありがたく思っております。心より御礼申し上げます。」

浄財を基にした、公平・公正な事業を全国で実施

委員長：「この事業は、全国の多くの釣りに関係している企業などにご参加頂き、ユーザーの皆様からの売上の一部を自主財源とした浄財を基に、地球の未来を志向する社会貢献事業として全国で活動を進めています。したがって、本事業の実施にあたっては、できるだけ公平・公正に進めて参りたいと思っております。水中クリーンアップの場所についても、釣り具のマーケットシェアに応じて、その中で管理者や利用者の皆様からのご要望をベースに優先順位を付けて順次実施をしています。

最近では、昨年の G7 伊勢志摩サミットでも、開催に向けたおもてなし事業の一環として、



中山一生 龍ヶ崎市長

水中クリーンアップ活動を実施させて頂けるようになるなど、各地で地道に活動を進めながら、ようやく5年目となりまして、少しずつ、みなさんに知って頂けるようになり、全国各地から水中クリーンアップのご要望をお寄せ頂けるようになって参りました。また、御県では、2018年秋に世界湖沼会議が開催されると伺っております。私どもでお手伝いできることでお役に立てればと思っております。」

龍ヶ崎市は、釣りに良いところ。 釣り人に沢山きて頂けると大変よい。

中山一生市長（以下市長）：「毎年、水中クリーンアップ活動に来て頂いて、本当にありがとうございます。当市の広報でもご紹介させて頂きます。龍ヶ崎市は、牛久沼もそうですが、小貝川と旧小貝と中沼、小野川なども

ありますが、釣りをする方には良いところという話が定着しているということは大変嬉しく思います。以前は観光協会で釣り大会なども催されていたこともあり、釣り人の皆さんに沢山来て頂けると大変良いと思います。」

水中クリーンアップで釣りのイメージアップに。そしてマナーを守った釣りを。

市長：「一方で、やはりマナーの問題が、ハクチョウがいたりするところで、色々問題があったこともありますが、最近はそうでもないのですが、針とか糸というマナーを問題視する方もいらっしゃるのも事実ですので、水中クリーンアップ活動をされることで、イメージアップにつながると思います。龍ヶ崎市としては、ちょうど牛久沼のこれからに向けて、動き出すタイミングに御会とのご縁がぴったりあります。釣り人の皆さんにとってもそうだと思いますが、あれだけきれいな自然環境の中に、人がたくさん来て自然を楽しんだり、ゆっくり時間を過ごすような場所があればということで、道の駅を牛久沼の水辺に整備しようとしているところです。そうなればまた釣り人の方にも駐車場と

してご利用頂けると思います。今後の取り組みについて、良い連携ができましたらと思います。」

委員長：「我々も LOVE BLUE 事業に関する委員会で毎月一回程度、事業推進の検討を真剣に取り組んでいます。お役に立てることがありましたら、色々お知恵をお借りしながら、お仲間に入れて頂くと非常にありがたいです。なかなか行政とこのようなご縁を結ぶのは大変なことなので、これを機に、共に一生懸命に水辺を守るというんでしょうか、そのためにどうすれば良いかということが全国各地に進めば良いと思います。」

環境を第一に進める、LOVE BLUE 水中クリーンアップ活動

委員長：「割と関東圏は人口が多いですし、釣り人も多いですが、今は、残念ながら釣る場所がだんだんと減ってきておりまして、ご理解の頂けるような場所を私どもとしても優先的にご協力させて頂き、共に良い関係構築ができればと私自身は思っております。今まで、海面の港湾や漁港などからのご要望や、内水面の琵琶湖や霞ヶ浦などをはじめとした湖沼・河川などのご要望も頂いております。



2016年7月11日から7月15日まで実施した、牛久沼での水中クリーンアップ活動

当業会が進める水中クリーンアップ活動は、水辺の環境保全に重点を置き、社会貢献事業として取り組みを進めております。したがって、各地の管理者や利用者の皆様からのご要望にお応えするよう、一生懸命に水中クリーンアップ活動をさせて頂くという考え方を第一に進めています。」

市長：「だから水中の不法投棄や様々なゴミの回収に、お取り組みになっていらっしゃるわけですね。牛久沼は河川区域ということもあり、茨城県の竜ヶ崎工事事務所さんとも、大変ありがたいなという話になっていました。色々清掃頂きありがとうございました。」

委員長：「プロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、事業開始以来、一切無事故でございまして、安全管理についても相当神経を遣ってやらせて頂いております。期間としては3日～5日間程度を基本として、1日4回、4名のダイバーが年間通して潜水しております。」

釣りは文化、奥が深い。そして、牛久沼も懐が深い。

市長：「それにしても、奥が深いですよ。釣りの世界というのは、日本の竿でも鑑定番組に時々出てきますが、びっくりするような値段が付きますよね。骨董的な価値もさることながら本当に文化ですね。釣りも。」

委員長：「そうですね、太公望といわれる時代から、今でも好きな方は本当に凄いです。本当にこの文化が少しでも皆さんに愛され



小島忠雄委員長

て、伸びて行くことを願うばかりです。そのために、我々でできることを少しずつ恩返しさせて頂こうと取り組んでいます。」

市長：「水辺のスポーツなど色々楽しめる、その意味でも、牛久沼ももの凄く懐が深い、奥が深いですので、色々な形で楽しめる場所になるのではないかと考えています。」

LOVE BLUE 事業は全国で喜ばれる事業

市長：「いずれにしても、我々龍ヶ崎市はもちろんですけれども、LOVE BLUE 事業は全国できっと喜ばれる事業だと思いますので、是非頑張ってもらえば、皆さんも喜ばれると思いますので、牛久沼も含めてよろしくお願ひします。『LOVE BLUE』ってというのが良いですよ。さわやかな清冽なイメージで。今日は、かえってご丁寧にご来訪頂きましてありがとうございました。」

委員長：「こちらこそ貴重なお時間を頂きありがとうございました。これからも茨城県下を含め頑張ってお参りますので、ご指導の程、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。」

茨城県鹿嶋市 額賀船溜

第17回 世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦 2018)開催記念 第89回 霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦と連携

当日ご参加の52団体の皆さんによる陸上清掃活動（メイン会場：鹿嶋市津賀城址公園周辺）に合わせて、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動はメイン会場に隣接する額賀船溜で実施いたしました。

※世界湖沼会議とは研究者・行政担当官・NGOや市民等が一堂に集まり、世界の湖沼及び湖沼流域で起こっている多種多様な環境問題やそれらの解決に向けた取り組みについての議論や意見交換の場となっており、本年は茨城県が会場となっております。（茨城県ホームページより引用 <https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kantai/kosyou/wlc.html>）



左より 中川清 土浦市長・霞ヶ浦問題協議会会長
中央 小島忠雄 LOVE BLUE 委員長
右 錦織孝一 鹿嶋市長



額賀船溜では、陸上清掃を行う地元の皆様とともに、プロダイバーは船溜内の水中を清掃いたしました。

実施経緯 茨城県、霞ヶ浦問題協議会、きたうら広域漁業協同組合よりご要望を頂き実施

茨城県かすみがうら市 霞ヶ浦歩崎公園 志戸崎漁港



霞ヶ浦問題協議会会長
中川清 土浦市長

霞ヶ浦にとって大変意義深い



陸上清掃は私たちが出来ますが、水中の清掃まではなかなか手が付けられない。見ているとこっちが寒くなるくらいだけど、本当に寒い中、ご苦労様です。今回も皆さんに水中クリーンアップ活動を行って頂いたことは、凄く役に立っています。水中にあるごみは普段は見えないですよ。

それを水中クリーンアップ活動を通して意識させて頂ける。それで、私たちが水の中へもごみを捨ててはいけないという意識の啓発に本当に役立つと私は思っています。霞ヶ浦の環境保全へのご協力へ心から御礼申し上げます。

実施経緯 茨城県、霞ヶ浦問題協議会、霞ヶ浦漁業協同組合よりご要望を頂き実施

茨城県東茨城郡茨城町 涸沼



クリーンアップひぬま
ネットワーク会長 谷萩 八重子さん

技術や装備をもつプロダイバーの 水中クリーンアップ活動に感謝しています



水の中は潜ってみないとわかりませんし、誰にでもできることではありません。水中の清掃には技術や装備が必要ですから、町でも漁協でも手がつけられないのです。そんな、地元ではどうしてもできない部分を皆さんに水中クリーンアップ活動を実施して頂き、とても感謝しています。これからもぜひ、涸沼で水中クリーンアッ

プ活動を続けて頂ければと思っています。涸沼は野鳥や昆虫、植物など、自然がとても豊かな場所。ラムサール条約の登録湿地には、自然を適正に利用することが求められます。涸沼でも、環境をしっかりと守りつつ、今後はより多くの方にこの自然を楽しんで頂けるよう、観光にもつなげていきたいと思っています。

実施経緯

茨城県、クリーンアップひぬまネットワークよりご要望を頂き実施

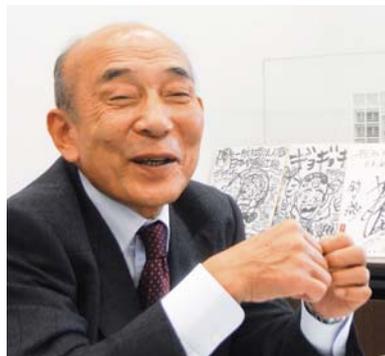
2015年度

LOVE BLUE 事業 水中クリーンアップ活動が 涸沼のラムサール条約登録の一助に

茨城県をはじめ、地元の市民団体の皆様と一緒に涸沼で実施した水中クリーンアップ活動では、これまで積み重ねられた地元の皆様の陸上の清掃と心を合わせてプロダイバーによる水中の清掃を実施させて頂いた結果、2015年5月涸沼は晴れてラムサール（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する）条約の登録湿地となりました。（涸沼における水中クリーンアップ活動は、2014年度より実施）



漁業協同組合の皆さんからの感謝の声



小泉運営委員長

小泉 一明 石川県漁業協同組合穴水支所 運営委員長が来訪

2016年11月30日(水)10:30~東京都中央区 日本フィッシング会館 5階

2016年11月30日水曜日、石川県漁業協同組合穴水支所 運営委員長 小泉 一明さんが、一般社団法人日本釣用品工業会の事務所を訪問され、水中クリーンアップ活動のお礼を述べられました。

漁業者の皆様のご要望に 沿うような作業の実施

事務局：本日は、事務所までお運び頂きましてありがとうございます。

小泉運営委員長（以下 委員長）：前波漁港も、おかげさんできれいになりました。

事務局：我々に活躍の場を与えて頂いて、ありがとうございます。本当にお世話になりました。皆様方のご理解・ご協力を頂いて、何とか実施させて頂いております。

委員長：いえいえ。本当にとんでもないです。

事務局：実際に水中クリーンアップ活動に我々が入らせて頂いて、地元の皆さんの反応というか、そういうのはどうですか。ご迷惑になっていないでしょうか。



2016年5月20日から5月22日まで実施した、前波漁港での水中クリーンアップ活動

委員長：本当に喜んでますよ。自分たちの要望に応じて、清掃をやって頂ける。例えば、保管してある漁具等には触らないとか。私らも作業の現場を見て、プロのダイバーの皆さんにお話を聞いたりして初めて分かったんですけど、本当にそのままにもらえる。

地域の特性の応じた清掃

事務局：我々が現地を視察した際、委員長にもご同行頂きましたが、雪が降っていて、本当に寒い中で波の音と雪の降る風しか聞こえないよ

うな。春先も、雪解け水が出てきてかなり水中は冷たいとか、ご指導頂きました。

委員長：ありました。ありました。

事務局：石川県内での実施だけではなく、他県でも地元の方にご指導頂き、経験を積ませて頂いています。

委員長：こちらこそ、本当にありがとうございます。

鹿児島県山川町漁業協同組合 代表理事組合長 川畑 秀二さんからのお礼状

平成29年2月7日

日本釣用品工業会
柿沼 清英 様山川町漁業協同組合
代表理事組合長 川畑秀二

水中クリーンアップ活動について（お礼）

拝啓 春寒の候、貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度は水中クリーンアップ活動による山川漁港水中清掃作業を5日間にわたり実施して頂き誠に有難うございました。

初日は小春日和を思わせる温かい日でしたが、最終日は寒雨の中での実施となり厳しく危険な作業であったと思います。改めてお礼申し上げます。

今回水中清掃作業を実施して頂き、改めて海中の美化に関心をもちました。

日頃水中にゴミを見つけても技術や装備がないと諦めており、このような作業をしない限り水中にあるゴミは永遠になくならないと実感致しました。

当組合も組合員清掃作業を実施しておりますが、回収したゴミにビンや缶が多いと聞き、ポイ捨てを減らす手段も何か考えていかなければならないと思っております。

美しい海を未来へ残せる様、当組合も頑張って参ります。

貴社の更なるご健勝とご活躍、そしてこの様な素晴らしい活動の輪がますます広がります様心よりお祈り申し上げます。



佐藤修 統括支所長

佐藤 修 山形県漁業協同組合 念珠関統括支所統括支所長に伺う

2016年6月28日(火) 山形県鶴岡市鼠ヶ関港

2016年6月28日火曜日、山形県鶴岡市鼠ヶ関港にて、山形県漁業協同組合 念珠関 統括支所 佐藤修 統括支所長にお話を伺いました。



緑の旗がお貸し頂いた漁連の旗です

地域の皆様のご要望に沿った 水中クリーンアップ活動

事務局：本日は、お忙しい中お時間を頂きましてありがとうございます。また、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動をご要望頂きましたこと、改めましてお礼申し上げます。

佐藤統括支所長（以下統括支所長）：こちらこそ、ありがとうございます。

事務局：ここ鼠ヶ関港での水中クリーンアップ活動は、3年目となり地元の皆様にとってどのような印象でしょうか。お役立て頂いておりますでしょうか。

統括支所長：本格的な装備で、無料でしかもゴミの処分までやってもらえる。こんなうまい話が本当にあるのかと思っていました。でも実際清掃に入ってもらって、こちらの要望通り作業をしてもらえるし、何よりも作業員の方々は礼儀正しいし、いつも気持ちの良い挨拶してくれる。本当にありがたいと思っていますよ。

事務局：日本全国どこでも、まずは地元の皆様方から清掃へのご要望を頂き、そして丁寧にお話を伺い、地元ならではのルールに沿って清掃をさせて頂いています。

統括支所長：漁師は水中のどこにゴミがあるか

わかってはいても、船が小さいし、まず潜る技術がない。本当に助かっています。

漁業協同組合との連携 作業にあたり 組合の旗をお借りしました

事務局：清掃にあたりまして、山形県漁業協同組合の皆様からのアドバイスで、組合の旗をお借りいたしました。見慣れない作業員が、海中に潜っていると地元の皆様に不安を与えてしまいます。旗をお借り出来たことで、そういった問題を解消することが出来ました。

統括支所長：季節外れに潜っていると、住民や漁師が心配するからね。この旗が出ていると安心です。問い合わせがあってもスムーズです。

第36回全国豊かな海づくり大会 ～やまがた～との連携

事務局：今回のプロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、第36回全国豊かな海づくり大会～やまがた～と連携させて頂いてています。大会記念行事として頂いたの实施となりました。これも私たちの活動をご要望頂き、ご理解とご協力あつてのことです。本当にありがとうございます。

統括支所長：漁港がメインの場所では実施するのは珍しいと思うけど、大会前に会場を清掃してもらえるのはうれしいよね。皆さんをきれいな場所にご案内できる。

事務局：皆様のお役に立てるようこれからも水中クリーンアップ活動を行ってまいります。今後とも宜しくお願いします。

統括支所長：こちらこそ宜しく。お世話になります。

福井県坂井市 東尋坊・崎漁港



一般社団法人
坂井市観光連盟
事務局長
石川基重さん

LOVE BLUE 事務局 以下、事務局：プロダイバーの水中クリーンアップをご覧頂いてどのような印象をお持ちでしょうか。

石川基重 事務局長 以下、事務局：本当にありがたいなと思っています。たぶん、海の中は誰もわかっていなかったと思うので。漁業者の皆さんや、海女さんはわかっていらっしやっただかと思えますが、観光の観点からすると、見えていなかったことが分かったので良かったです。

事務局：地元の皆さんの東尋坊の海への思いはどのようなものでしょうか。

事務局長：20年前、この周辺でナホトカ号の重油事故があった関係で、海を汚してはいけないという思いは強いです。事故当時、海は真っ黒でした。油の除去作業は半年ぐらいで終了したのですが、風評被害もあって、観光客が減り大変でした。

今は、北陸新幹線の開業もあって、ここ東尋坊が福井県でも最も観光客が多い場所の一つです。

事務局：東尋坊の魅力と LOVE BLUE 事業への印象を教えてください。

事務局長：地元にいるとなかなか分かりませんが、この東尋坊の姿が魅力です。手すりも何もない、自然のままの姿ですね。LOVE BLUE の活動の趣旨はすごくよく、これからも、是非、続けて実施して頂きたいですね。これを機に福井県内でも引き続き実施して頂けるとありがたいです。

事務局：福井県は、ここ東尋坊と崎漁港が初めての実施となります。ご要望頂きましてありがとうございます。引き続き安全第一で進めてまいります。

事務局長：こちらこそありがとうございます。よろしくお願いいたします。



東尋坊での清掃の様子



東尋坊観光協会
会長
小南正一さん

LOVE BLUE 事務局 以下、事務局：プロダイバーによる水中クリーンアップをご要望頂きましてありがとうございます。東尋坊での実際の活動をご覧頂いて、どのような印象をお持ちになりましたか。

小南正一 会長 以下、会長：もう、本当にありがたかったですね。観光協会でも、行政と協力しながら清掃活動は定期的に行っていますが、基本的には手の届く範囲で実施しています。水際のところに打ちあがったごみについては回収したことがありましたが、海の中は基本的にはないですね。過去一度もなかったのではないのでしょうか。今回のように東尋坊で実施して頂けるのは本当にありがたい。

事務局：小南会長の東尋坊に対する思いというのはどのようなものなのでしょうか。

会長：ここは生まれ育った故郷です。そこは誰でも大切な部分だと思うのですが、東尋坊だからこそ、私はこのような仕事が出来ている、させてもらっていると。

ただ生まれ育ったという事だけではなく、生計も立てているという点で、この環境を当たり前と思てはいけない、感謝せなあかんっていう、大切にしていきたいという思いが強いです。

事務局：私たちも社会貢献事業として、プロダイバーの水中クリーンアップ活動を実施しておりますが、ここ東尋坊が福井県下で初めての実施となりますが、国内屈指の観光名所で活動の場を頂くことができました。本当にありがとうございます。

会長：こちらこそありがたいですね。ここ東尋坊は、日本の夕日百選にも選ばれています。9月末から10月の頭の休日に「東尋坊夕陽ハートカクテル」というイベント開催しています。水平線に夕日が沈んでいく、めったに見られない素晴らしい景色なので、観光客の皆さんに大変喜んで頂いています。

事務局：そのような場所でのクリーンアップ活動を LOVE BLUE 事業にご要望頂きましてありがとうございます。

会長：利益の一部を社会に還元していく。このような考え方は我々も見習わなければなりません。よろしくお願いいたします。また、ありがとうございます。

徳島県海部郡美波町

日和佐港



徳島県美波町産業振興課
課長
小坂進さん

小坂進 課長 以下、課長：潜って頂けるだけでもありがたいのに、教育的な取り組みもやって頂ける。これはものすごくありがたいです。思っているもなかなかできないのですよ。

小島忠雄 委員長 以下、委員長：ありがとうございます。やっぱり、自分の目で見てみると、ああ、こういうことをしてはいけないなということより分かって頂いて、前回の由岐小学校の実施の際も、児童の皆さんが自宅に帰り、両親に伝えますという話をされていました。大人も子どももごみを捨ててはいけないとって頂けることがありがたいですね。

課長：誰かが捨てないとごみはあるわけなのですが。誰かが捨てているわけですよ。水の中だけではなく、道路沿いとかも。車から空き缶・瓶を投げ



美波町立日和佐小学校
校長
大西育郎さん

小島忠雄 委員長 以下、委員長：今回お邪魔させて頂いたこの LOVE BLUE 事業ですが、清掃を行ったり、放流を行ったりしているわけですが、釣り人の皆さんに釣り具を買って頂き、その売り上げの一部を釣り具メーカー等から、弊会へ拠出して頂いた浄財を基に、全国公平に地球の未来の為になるよう取り組みを進めていくという事業になります。

大西育郎 校長先生 以下、校長：すごく良い取り組みですよ。子どもたちが興味をもつというか、それこそ環境教育と直結しているような印象があります。

委員長：海や川をきれいにする活動の一環として、本日のように、水中清掃の現場をご見学頂けるのは、学校教育と連携できることなので、私どもも大変光栄です。

校長：実際に体験する、見てみるの方が子どもの心に残ると思います。子どもたちが自分なりに感じたこと

捨てたり。通学路がそばのところもあり、児童にあたれば、ケガや当たり所によっては大変なことになります。

委員長：そうですね。周りの人たちが注意し合うことで、少しずつ良くなるのではないのでしょうか。

課長：子どもたちが気づいてくれることで、大人になった時にも、してはいけない事として心に残りますから。子どもたちに水中清掃活動を見てもらうことは非常に重要だと思います。

委員長：前回この環境教育授業を受けて頂いた児童の皆さんが、私たちにお手紙をくださいました。この手紙を、釣り人の皆さんや、LOVE BLUE 事業にご参加頂いている企業の皆さんにご覧頂けるようにしたところ「大人が襟を正さなければいけないよね」「大人がちゃんとしなければだめだね」と様々ご意見を頂きました。今夏の環境教育授業でも、児童の皆さんにプロダイバー水中クリーンアップ活動をご覧頂くことで、何か気づいて下されば大変よいと思っています。

お時間を頂きましてありがとうございました。

課長：こちらこそありがとうございました。

が将来何か役立つことがあればそれで良いと思います。見て、聞いて、感じた事を大切にしたいと考えています。

委員長：自分自身の実践として活用して頂けるとありがたいです。そして少しでも今回の水中クリーンアップ活動をご覧頂いた印象が児童の皆さんの心の中に残ってもらえれば本当に良かったと思います。昨年実施した由岐小学校の児童の皆さんも、「港にそんなものが落ちていなんて信じられない」「こういうことをやってはいけない。お父さんお母さんにも言うんだ」と話してくれました。

校長：私も水の中がどうなっているのかすごく興味があります。子どもたちも何か感じてくれれば良いかと楽しみにしています。

委員長：そのような印象は、心の中にずっと残っているものですよ。

校長：残っています。口で「海の中は汚れています」といっても、「えっ」て思うだけでしょうから。LOVE BLUE 事業で、今回の環境教育授業を実施して頂きありがとうございます。よろしくお願ひします。

委員長：こちらこそよろしくお願ひします。

徳島県海部郡美波町 由岐漁港



美波町由岐支所
浜大吾郎さん

美しい自然環境を次世代につなげる LOVE BLUE 事業の理念と同じ思いを持っています



「水辺をきれいにすることで、美しい自然環境を次世代につなげる。その LOVE BLUE 事業の理念は、“この地域を今よりもっとよくして次の世代に託したい” という私たちの思いと同じだと感じました。由岐では今も、子供は地域で育てるもの、という考えが残っています。その良

さを私たちが実行して、次の世代につなげなければと思っていますが、故郷を守るためには今回のように外部の力をお借りすることも必要です。小島さんのお話を聞いたり、プロのダイバーの仕事に触れたりすることが、子供たちにとって、とてもいい刺激になったと思いますね。」



美波町産業振興課
小林大起さん

子供も大人も『ゴミを捨てないようにしよう』という気持ちを再認識

「由岐の魅力は、昔ながらの漁師町の雰囲気そのまま残っているところです。日々の暮らしと海との関わりがとても親密で、地元の人たちが積極的に海に関わってきた町なのだろうと感じています。海との関わりが深い町だからこそ、海と向き合う姿勢を考えることは大事。水中クリーンアップ活動や環境教育授業が行われたことで、子供も大人も『ゴミを捨てないようにしよう』という気持ちを再認識したはず。これを機に、漁業の町・由岐がさらに活気づいたらいいなと思っています。」



東由岐漁業協同組合
代表理事組合長 宮本勝さん

海の中は自分たちで 清掃できないのでありがたい

「地元の方は、水中クリーンアップ活動のことを『こんだけの機材を使ってしてくれるなんて、ごっつええなあ』言うてましたね。由岐での漁は、6月1日から9月中旬まで、アワビやトコブシ、サザエのかつぎをする(素潜り漁)のが中心。だから例年、5月31日にみんなで漁場に潜って、有害生物の除去をするんです。また、台風が来ると南風に乗って枝やらゴミが流れてきて、港の中に溜まるから、それをほうきで集めたりしています。いろいろやってはいるけど、海の中は自分らで掃除したくてもなかなかキレイにできないから、水中クリーンアップ活動は、ありがたいですよ。」

実施経緯

徳島県、美波町、西由岐漁業協同組合、東由岐漁業協同組合よりご要望を頂き実施

大分県別府市 別府港



大分県別府土木事務所管理課
副主幹 佐藤元一さん

寒いなかありがとう



「実は、私が釣り好きということもあって、LOVE BLUE の水中クリーンアップ活動のことは知っていました。また、私自身、海を守るために清掃活動をするにはとても関心がありましたので、今回のお話をお受けさせて頂くことにしました。別府の海は、この時期が一番澄んで美しいのですが、玄界灘からの北風が山を超えて吹いてく

るため気温が下がり寒いのです。夜は鶴見岳からの吹き返しの風も強いですね。だから今回、水中クリーンアップ活動を行う皆さんの様子を拝見し、『寒いなか、申し訳ないなあ。でも、ありがたいなあ』と強く思いました」



別府港のプロダイバーエントリー動画です。

実施経緯 大分県よりご要望を頂き実施

三重県熊野市 二木島港



熊野漁業協同組合
理事 山下真次さん

海の中の清掃は本当にありがたい

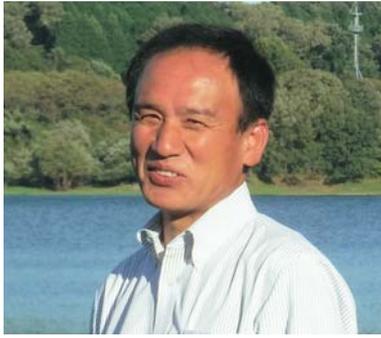


「二木島港は湾の奥やから、流されてきたゴミが溜まりやすいんでね。僕らも岸壁の上は掃除するけど、海の中は専門の技術や装備がいるし、お金もかかるし、自分らではできないでしょう。だから、みんな『ありがたい』と言っているよ。水中クリーンアップ活動が始まって一番びっくりしたのは、作業員さん

たちがみんな礼儀正しいこと。誰かが通るたびに丁寧に挨拶してくれるから、ここの若い子らもみんな感心しとったよ。水中クリーンアップの時はちょうど、潮が巻いて海の底が濁っていたから、作業も大変だったと思うよ。ここは黒潮だけじゃなくて、底から入り込んでくる潮もあるからね。」

実施経緯 三重県、三重県漁業協同組合連合会、熊野市、熊野漁業協同組合よりご要望を頂き実施

愛知県犬山市 入鹿池



入鹿用水土地改良区
事務局長 生田幹也さん

多くの方への マナー啓発活動にもなります



ここは桜や紅葉の景色もいいのですが、5月の新緑の時期もとても気持ちがいい。年間を通して楽しめるので、観光やレジャーで訪れる方がたくさんいます。しかし人が集まると、どうしてもごみが出るようになります。地元でもごみ拾いを行っています。陸上のごみしか拾えません。ですから、今回のように入鹿池の水中を清掃して頂けるのは、とてもありがたいです

ね。こうした活動をして頂くことは、入鹿池で釣りを楽しむ方々を始めレジャーや観光で訪れる方に対しても、よい啓発活動になるのではないのでしょうか。入鹿池は農業用水を供給する場所。人が口に入れるものをこの水で作っているのです。だからこそ、きれいな水でなければなりません。入鹿池をきれいに保つということは、とても大切なことだと思うのです。

実施経緯 愛知県、犬山市、入鹿用水土地改良区よりご要望を頂き実施

石川県小松市 安宅漁港



石川県漁業協同組合小松支所
運営委員長 森田誠さん

水中クリーンアップ活動に 心からありがとう



漁港の水の中の清掃は、やりたくても漁協の予算の関係でできないのが現状でした。安宅漁港は、梯川を利用した船溜まりの港です。強風や大波から船を守る一方、川から流木などが入ってくるとなかなか出て行かないという面があります。ですから、皆さんに水中

クリーンアップ活動を行ってもらえるのは、本当にありがたいのですよ。一般社団法人日本釣用品工業会さんは、現場で作業されている方も含めて「やってあげている」という感じがまったくありませんし。こんな人たちがいるんやなあ〜と感心しています。本当にありがとう。

実施経緯 石川県、石川県漁業協同組合及び同小松支所よりご要望を頂き実施

LOVE BLUE 事業では、2015年より地域の皆様からのご要望のもと、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動を題材とした環境教育を実施しています。水中クリーンアップ活動は、教育の現場でもお役立て頂いています。



2017年度

～「地球の未来を」みんなで地球の環境を一緒に守っていきましょう～

小島忠雄委員長 以下、委員長：世界は海でつながっています。どこかへ行っちゃうからではなく、ごみはきちんと決められたところに捨てる。自分たちがちょっと気を付ければ、世界中の海がきれいになっていきます。「地球の未来を」みんなで一緒に守っていきましょう。ぜひこのことを覚えて頂いて、ご家族の皆さん、お友だちにも伝えてください。

児童：授業を聞いて、映像を見て海の中にゴミがあることが分かりました。ごみは、決められたところに捨てなければいけないと思いました。

委員長：そうですね。今日、掃除をすればそこらごみが無くなり、次から捨てないようにすればそこはきれいになるわけですね。ぜひ一緒に地球の環境を守っていきましょう。



日和佐小学校 5年 川那部 真帆さん (当時)

LOVE BLUE 水中クリーンアップと地元の教育プログラム「水プロ」が連携し由岐小学校で全校児童の皆さんに小島忠雄委員長が環境教育を実施!



2016年度



由岐小学校 校長 池本 一彦 先生

自然を愛する心は郷土を愛する心につながり、社会や周囲の人々を愛する心につながるはず。そうした意味でも、環境教育授業は非常に意義があります。



由岐小学校 6年担任(当時) 張間 尚久 先生

本校環境教育授業の一環として、由岐漁港の水中クリーンアップ活動の様子を見学させて頂き、ありがとうございました。普段自分たちの地域の財産である美しい海をきれいにしようと取り組んでおりますが、海中に対する意識は低く、また清掃もできないため、貴重な体験をすることができました。これをきっかけに、これから美しい海を守ろうとする児童を育てていきたいと思っております。素晴らしい機会を与えて頂いたことに感謝申し上げますとともに、貴団体の活動が今後益々発展されることを祈念申し上げます。大変ありがとうございました。

LOVE BLUE の環境授業を終えた児童の皆さんからの感謝の手紙(一部)

今日は、海中清そうについていろんな事を教えてくださりありがとうございました。海の中にオーブントースターや自転車などがありおどろきました。去年も来てくださり、東山支漁業を清そうしてくれて、今年は、カンやペットボトルなどの小さいゴミが、少しへっていたと思いました。海にゴミを捨てる時、自分にもかかわると言う事が分かりました。なので絶対にゴミはゴミ箱に捨てたいです。そして、海にいる魚や海藻や貝類などが、ずと食べられるようにしていきたいです。今日、海中清そうについて孝えてもらった事を、これからいろんな事に生かしていきたいです。海が少しでもきれいになるように、していきたいです。



由岐小学校 6年 戎井 那奈

由岐小学校 6年 戎井那奈さん(当時)

LOVE BLUE 水中クリーンアップと地元の教育プログラム「水プロ」が連携し小学校で環境教育を実施！



2015年度

一般社団法人日本釣用品工業会 LOVE BLUE 委員会 小島忠雄委員長の小学校でのお話

水には国境がありません。

地球上では、水はすべてつながっているのです。だから、例えば川で捨てたごみが、遠くの海で見つかることもあります。ごみが増えて水が汚れば、魚や生き物が住めなくなってしまいます。

だからこそ、ごみを捨ててはいけません。けれど、水中清掃活動をしていると、時には自転車など、思わぬものが出てきます。誰かが海に捨てている可能性もありますよね。悲しいことですが、そういう現実もまだまだあるのです。

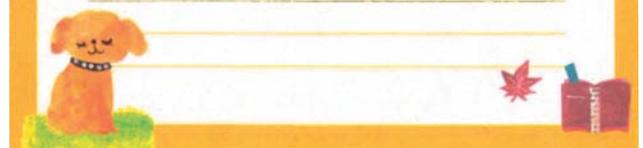
この後、皆さんには水中清掃活動を見学してもらいますが、この町の海にどんなものが落ちているか、ぜひ見てくださいね。私たちはこれからも水中清掃活動を続けることで地球に感謝し、自然を取り戻すお手伝いをしていきたいと思っています。(抜粋)

LOVE BLUE の 環境授業を終えた 児童の皆さんからの 感謝の手紙(一部)

この前は、おもしろい中私たちのために海中清掃の
見学をさせてくれたり、海中清掃についてたくさん
のことを教えてくださり、ありがとうございました。私は、海
中清掃をしているなんて知りませんでした。でも今日、知れて
良かったです。それに「海や道はたなどにゴミを捨てている
人がいたら、注意しよう」という目標もできました。
由岐の海は、きれいに見えるけど意外とゴミがあるんだ
なあと思いました。私が一番おどろいたのが、海の底に
あんなに大きいタイヤがあったことです。あんなに大きい
タイヤを海に捨てる人がいるんだなあと思いました。
私は、海で泳ぐのが大好きだし、「海にいる魚やはえて
いる海草」などが大好きです。そんな魚や海草がいなくな
るのはいやなので、ゴミはゴミ箱に捨てます。

今日、教えてくれたことをお母さんやお父さんなどの人に
教えてあげたいです。

由岐小学校 6年 岸 姫華



由岐小学校 6年 岸 姫華さん(当時)

全国に広がる感謝の輪

～地球環境基金 企業協働プロジェクト編～

LOVE BLUE 助成

独立行政法人環境再生保全 機構地球環境基金とは

当時の環境庁（現・環境省）が中心となり、民間団体（NGO・NPO）による環境保全活動への資金の助成その他の支援を行うため、1993年5月に創設されました。

1993年度から2017年度までに延べ4,858件、総額161億円の助成を行うなど、NGO・NPOの環境保全活動を積極的に支援しています。

地球環境基金企業協働プロジェクト・ LOVE BLUE 助成とは

地球環境基金の支援する活動の中で特定の活動に対して支援をしたい寄付者の「想い」を反映させたプログラムです。地球環境基金のビジョン・ミッションの範囲の中で、助成対象・分野・金額に独自性があり、選考などには、寄付者の「想い」が反映されます。

LOVE BLUE 助成は、一般社団法人日本釣用品工業会より寄付された資金によるものであり、清掃活動など、水辺の環境を構築するための助成金となっております。

LOVE BLUE助成団体

2015年度	
香川県	NPO アーキペラゴ
群馬県	NPO 浅間・吾妻エコツーリズム協会
東京都	NPO 荒川クリーンエイド・フォーラム
岐阜県	NPO いびがわミズみずエコステーション
香川県	海守さぬき会
東京都	(一社) JEAN
鹿児島県	誇れるふるさとネットワーク
神奈川県	NPO ワールドオーシャンズデイ
2016年度	
島根県	NPO アンダンテ 21
岐阜県	NPO いびがわミズみずエコステーション
岡山県	NPO グリーンパートナーおかやま
山形県	NPO 公益のふるさと創り鶴岡
広島県	NPO 自然環境ネットワークSAREN
石川県	NPO 能登半島おらっちゃんの里山里海
鹿児島県	誇れるふるさとネットワーク
神奈川県	NPO ワールドオーシャンズデイ
2017年度	
島根県	NPO アンダンテ 21
岐阜県	NPO いびがわミズみずエコステーション
岡山県	NPO グリーンパートナーおかやま
山形県	NPO 公益のふるさと創り鶴岡
石川県	NPO 能登半島おらっちゃんの里山里海
福岡県	(一社) ふくおかFUN
山梨県	NPO 未来の荒川をつくる会
長崎県	やったろうde高島

全国 **8** 団体を助成 (3年間累計 24団体助成)

助成団体の皆様には、2017年度もジャパンフィッシングショー2018 in YOKOHAMA(会場：神奈川県横浜市パシフィコ横浜)のメインステージにて4万人を超える来場者に向けて活動報告会を実施して頂きました。

1月19日(金) 島根県 NPO アンダンテ21、1月20日(土) 岡山県 NPO グリーンパートナーおかやま、石川県 NPO 能登半島おらっちゃんの里山里海、1月21日(日) 長崎県 やったろう de 高島、福岡県 一般社団法人ふくおかFUN、山梨県 NPO 未来の荒川をつくる会

独立行政法人環境再生保全機構 理事長 福井光彦さん ～ LOVE BLUE 助成は企業協働 プロジェクト第一号として 理想的な連携に昇華～

LOVE BLUE 事務局 以下、事務局：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金さんとの企業協働プロジェクトとして、全国初の冠助成事業としてスタートさせて頂いてお陰様で3年目を迎えることが出来ました。この間、LOVE BLUE 事業と想いを同じくする、全国各地の環境保全団体の皆様の活動を、LOVE BLUE 助成を運営される地球環境基金さんを通じて、全国の釣り人の皆様とともに応援させて頂くことができました。あらためて心より御礼申し上げます。

各団体の毎年の活動は多岐にわたり、多くの方々を巻き込んだ社会貢献事業として、大変なご苦勞を積み重ねながら、各地で社会的にも高い評価を受けていらっしゃる、本当に素晴らしいと思います。

私たちも、LOVE BLUE 助成として支援させて頂くと同時に、助成団体さんからも力をもらっている、そのような連携をさらに広げられればと思っています。

福井光彦 理事長 以下、理事長：私たち地球環境基金は、企業協働プロジェクトとして第1号に一般社団法人日本釣用品工業会さんにご参画頂いて、非常に感謝しておりますし、企業・団体の皆さんと連携し一緒になってプロジェクトを進めていく理想的な形になっていると思います。

事務局：ありがとうございます。その形のひとつとして、LOVE BLUE 助成をお受け頂い

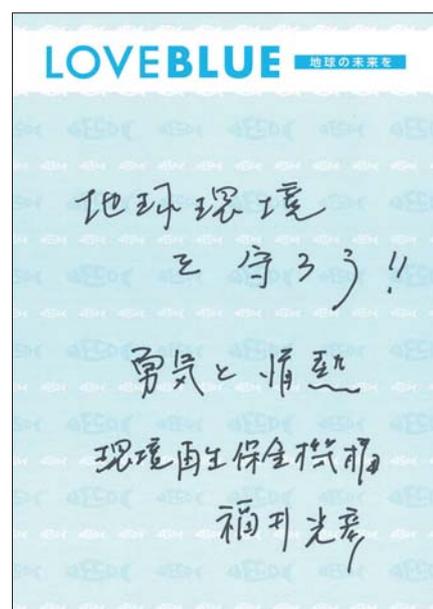


ジャパンフィッシングショー 2018 メインステージでの講演の様子

ている各団体の皆さんに、当工業会が主催する4万人を超える来場者のあるジャパンフィッシングショーのメインステージで毎年、活動報告会を実施して頂いております。助成団体の皆さんからも大変好評で、LOVE BLUE 助成を支えている、大勢の来場者・釣り人の皆さんの前で日頃の活動と感謝を発表できる貴重な機会だとお喜びを頂いております。これからも地球環境基金さんをはじめ、全国各地のNPO・NGO等の皆様との連携を深化しながら、地球の未来のために、企業協働プロジェクト LOVE BLUE 助成がさらなる発展をするよう、是非お力添えをお願いします。

理事長：今後ともぜひ、地球環境基金と日本釣用品工業会さんとでご相談しながら一緒にやっていきましょう。よろしく申し上げます。

事務局：ありがとうございます。こちらこそよろしく申し上げます。



(独) 環境再生保全機構 福井光彦 理事長より エコライフ・フェア 2018の会場にて、環境への取り組みに関するメッセージを頂きました。

ジャパンフィッシングショー 2018 in YOKOHAMA の活動報告会にて

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金 ～ LOVE BLUE 助成は、中期的な計画を立てられることで、活動の質が高まり助成団体の皆さんに喜んで頂いています～

地球環境基金課 坂本雅洋さん：LOVE BLUE 助成の場合、最大で3年間の助成を受けることができますので、助成団体の皆さんにとっては中期的な活動計画がより主体的に立てられます。これは中期的な団体の活動の基盤形成に大変役立っていると伺っています。

3年間何をしていくのかを計画できること。これは活動自体の質が高まるポイントにもなっています。その意味でも LOVE BLUE 助成は地球環境保全活動に大きく貢献していると思います。



地球環境基金 坂本雅洋さん

NPO 能登半島おらっちゃんの里山里海 ～活用の幅が広い LOVE BLUE 助成に感謝～

金田直之 専務理事：ジャパンフィッシングショーのメインステージで大勢の釣り人の皆さんの前で LOVE BLUE 活動報告をさせて頂いたわけですが、環境保全活動について皆さんに関心を深めて頂きたいと思っています。このような場を継続して頂けるのが大切だと思います。

LOVE BLUE 助成2年目ですがすごく助かっています。特に LOVE BLUE 助成に関わる事務員の賃金にも助成金が活用できることがありがたいです。本当に助かるし、そのように思っている団体さんはたくさんあると思いますよ。

もともと私たちの応募のきっかけは、独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金の助成事業としてスタートしたのですが、その地球環境基金さんの助成メニューの中に LOVE BLUE 助成を見つけたところからです。NPO の組織を継続していくためには、活用の幅が広い LOVE BLUE 助成をぜひ受けたいと思いました。私達は、釣り人の皆さんやメーカーさんの環境保全に対する思いには、本当に感謝しております。本当にあ

りがたいです。今日フィッシングショーに来て、あらためて実感できましたし、このステージで私たちの活動報告を行ったことで皆さんのご支援をさらに実感しました。

活動頑張ります。ありがとうございました。



専務理事 金田直之さん

一般社団法人ふくおか FUN ～ LOVE BLUE 助成のおかげで事業の安全性を高められました。同じ水辺のレジャーとしてこれからも協力ができるように～

大神弘太郎代表理事：LOVE BLUE 助成を受けるまでは、私たちのダイビングの世界と釣りとは相反する部分が多いのではないかと考えていました。釣りは魚を「捕る」、でも私たちは、魚は「捕らず」に「撮る」(写真撮影)のみなんです。魚に触れるとか、傷付けるといったことに対して、アレルギー反応があったりする方もいます。

ただ、LOVE BLUE 助成を受けることで、先ほど島野会長とも会場内でお話をさせて頂いたのですが、もっと広く、多面的な物事のとらえ方があることを私たちが気付くことができました。フィッシングショーで活動報告をさせて頂くことで、レジャーとしての釣りが、大きな市場になっていることも分かり、水辺についてはダイビング以外の考え方もあることが再認識できました。

そのうえで融合していくことも考えていくと、海は結局みんな一緒じゃないですか。

海が好きで、何かをする種目が違うだけという認識で考えることで、様々なアプローチがあります。例えば、私たちは水中から魚の様子を見ることが出来ます。釣りにそれを生かしていくことが出来れば、その魚の生態とか動きとかを見ることが出来て、釣りがもっと面白くなるかもしれません。お互いの協力関係がもっと生まれてくれば、海を通したレジャーの発展にもつながりますし、お互いのネットワークを活用することで、より多くの人に海の魅力を伝えることもできます。

LOVE BLUE 助成による活動の広がりという点では、器材の充実が出来ました。子どもたちを受け入れるというのは、高い安全性に配慮しなければなりません。特に私たちは、海でスノーケリングをしますので、助成を受けて充実した器材によって、より安全性を高めることができるようになりました。

本当に感謝の一言です。また、LOVE BLUE 助成については、人件費の助成を受けられることも大きいですが、私たちの活動を支えているダイバーはプロなのですが、ノウハウだとか技術とかを今までは無償で提供してもらっていました。対価をお渡しすることは、スタッフの充実においても非常大きな効果があります。ダイバーが有償になるとボランティアでなくなる、という方もいらっしゃいますが、むしろそれにより、まさに質の高いサービスを参加者に対して提供できます。私たちもプロフェッショナルとしての志がありますので、成果に対する対価というものは、必要不可欠なのではないかと思っています。

最後になりますが今日フィッシングショーに来させて頂いていろいろな人たちを引き付ける魅力がここにはあると感じました。私たちもダイビング産業を発展させていくことにも寄与したいと考えていますので、大変勉強になりました。

フィッシングショーのメインステージでの活動報告の場を頂き、ありがとうございました。



代表理事 大神弘太郎さん

NPO 未来の荒川をつくる会 ～「継続は力なり」、LOVE BLUE 助成で活動を推進。ごみが減って行くことを実感～

河野芳樹 清掃隊長：私たちの活動は、人数が多くなっていますので、LOVE BLUE 助成は装備品の調達に活用させて頂いています。絶大なるご支援を頂きました。私たちは、5本の川を11回に分けて清掃しています。要するに1年に1回しか同じ場所を清掃できないのです。なので土手にごみの花（事務局注：土手沿いにごみがたまっている様子）が清掃前に咲いている



清掃隊長 河野芳樹さん

ことが多かったです。でも、活動を継続してきたことで、最近では、ごみの花が咲かなくなってきました。まさに「継続は力なり」ではないかと思っています。これからも頑張ります。ありがとうございました。

やっつろう de 高島 ～海の中を見てもらうと、ごみがあったら拾うという意識が生まれる～

小村秀蔵さん：私たちの活動を LOVE BLUE 助成としてご支援頂いている釣り人の皆様へ、私たちの活動を発表できるというのは、非常に価値のあることだと思います。私たちの活動は、皆さんのご支援、ご協力で成り立っていますということをお伝えするだけでも意義があることと考えています。私たちの活動は、地元長崎県だけではなく県外からも多くの方にご参加頂いています。活動にご参加頂く皆さまにはシュノーケリングをして頂くわけですが、活動に参加されたことをきっかけに、自分の住んでいるところ以外の海の中でもごみを見つけたら、拾おうとしてくれます。これはありがたいですよ。

ごみを出さなくなり、そしてごみを拾って頂けるようになる。海中のごみを拾うのは難しいのですが、活動を通してダイビングのスキルを上げてもらいごみを拾うことが出来るようになって頂いています。自分のダイビングのスキルアップと環境に対する貢献の二つを同時にやっています。

お子さんにも参加して頂いていて、親子で一緒に海のこと、魚や海藻などの生物を総合的に楽しく学んでも頂いています。

大事なことは自然と接するときの意識改革だと思うのです。

海の中でごみを拾うときは普通の軍手や手袋では危ないので特別な手袋が必要なのです。LOVE BLUE 助成を頂いたおかげで、安全第一で作業できるようになるのは大変ありがたいです。また、広報活動を充実できるのもありがたいです。海の中の清掃は見えないですからなかなか助成の対象になることがないのです。だから本当に LOVE BLUE 助成はありがたいのです。



事務局 小村秀蔵さん

島根県

NPO

アンダンテ 21

協働と次世代育成をめざした
水環境保全プロジェクト

島根県益田市の海岸線を舞台に、協働と次世代育成をめざした水環境保全活動を実施しています。清掃活動と自然・環境教育を統一させた野外イベントを学校や地元組織とともに開催、さらに環境教育・啓発活動等を行いながら、地域の水環境保全のプレイヤーとなる次世代の育成に取り組んでいます。



当法人は益田市を流れる「高津川」を中心とした水環境保全とまちづくり活動を行ってきましたが、LOVE BLUE 助成のおかげでその活動範囲を海を含む多くのエリアに拡大することが出来ました。



理事長 渡邊 勝美さん

また、資金源の課題があった小学校等での環境教育にも積極的に取り組むことができるようになり、当地の環境保全を担うひとつづくりが進んでいます。

岐阜県

NPO

いびがわミズ
みずエコステーション子どもたちに夢を与えるクリーン大作戦、
環境塾、アースデイいびがわ

揖斐川流域クリーン大作戦：毎年ゴミゼロの日に近い5月最終土曜日に実施し、ゴミ拾いと水質検査、鮎の放流などを行っています。いび地域環境塾：揖斐郡三町の小学生以下の親子を対象に環境にかかわる体験講座を年間を通じて実施しています。アースデイいびがわ：地産地消やフェアトレードをテーマとして毎年10月に青空市場やお茶漬け選手権、体験講座、パネル展示、ステージイベントなどを行っています。



LOVE BLUE 助成を受けたことにより、臨時職員を雇うことができ、NPO や企業、団体、行政などとの協働に向けた動きをしっかりと行うことができました。



理事長 中村 賀久さん

人と人とのつながりの大切さを実感させて頂きました。趣旨をご理解頂き助成頂いたステークホルダーの皆様方に感謝申し上げます。

岡山県

NPO

グリーンパートナー
おかやま海ごみから流域環境を考える
プロジェクト

海ごみの問題を広く県民に啓発するために、環境大臣をお迎えし「里海シンポジウム」を開催しました。また、「海底ごみ」を、底引き網漁船で引き揚げ「見える化」し、ワークショップで考える体験学習「海底探検隊2017」や川ごみの調査を行う「川ごみ探偵団」、河川敷の清掃を行う「クリーンアップ大作戦」を行いました。



LOVE BLUE 助成を頂いたことによって、シンポジウム・底曳網体験学習・河川ごみ調査と「山～川～海」をつなぐ一連の啓発事業を行うことが出来ました。

このため多くの皆様に「海ごみ問題」を身近なこととして実感して頂きました。この助成を通じて支えてくださった全国の釣り愛好家の皆様、釣り用品関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



理事長 藤原 瑠美子さん

山形県

NPO

公益のふるさと創り
鶴岡

鶴岡市内川の藻刈りプロジェクト

鶴岡市内を流れる内川に夏の間繁茂する、藻を刈るボランティアを編成し、市民参加型の内川の環境保全活動を進めていくことを行いました。



内川の藻刈りは専門にやっていたおじいさんが一人で行っていましたが、4年前にお亡くなりになりました。その後、当団体が支援しながら細々に行ってきましたが、この助成により市民活動プロジェクトを立ち上げることができました。



代表理事 風間 富士子さん

石川県

NPO

能登半島
おらっちゃんの里山里海

能登の“里海”文化の継承と保全

事業2年目の今年は、市内小学校との連携を強め、「知る」「守る」活動となる海岸清掃活動を計4回実施できました。里海保全に関連する里山保全（植樹）活動も併せて実施しており、300人以上の参加がありました。渚あそびや釣りなど里海を「楽しむ」活動も継続して実施し、お魚ワークショップなどの開催によって海の恵みについても理解を深めることができました。



能登半島先端地域にあって、これまで当たり前であった住民の“里海”とのかかわりが少なくなってきた状況の中で、今回の LOVE BLUE 助成を受けたことによって、多くの市民や子供たちに“里海”とのかかわりの重要性とその魅力が伝えることができました。渚で遊ぶ子供たちの表情は活き活きとし、海外からの漂



理事長 加藤 秀夫さん

着ごみを集め分別するときには、興味深げな表情を浮かべていました。三方を海に囲まれた半島先端地域の先人たちが、里海とともに暮らし、築いてきた文を未来に伝承するためにも、今回の事業は有意義でありご支援頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

福岡県

一般社団法人

ふくおか FUN

“ひろい”海の活動

子ども達がスノーケリング体験を通して福岡の水中世界に生息している生き物や水中ごみの存在に気づき、生物多様性や海の環境問題を考えることで、持続的かつ自発的な行動に繋げていくことを目的としたプログラムです。



LOVE BLUE 助成を受けたことにより参加者の受入れ人数が増え、それに伴いメディアの出演も増えました。新聞や地方雑誌だけでなく、九州地方で放送されるニュースでの特集や、福岡地方の環境特番(KBC テレビ・「水と緑の物語」)等に出演しました。



代表理事 大神 弘太郎さん

山 梨 県

NPO

未来の荒川をつくる会

名勝・昇仙峡から甲府市を縦貫する
荒川及びその支流の河川清掃

甲府市民の生活を支え、憩いの場でもある荒川の清流を守り自然と人が共生する社会の一翼を担いたいと活動しています。毎月1回約100人が参加して河川内外の清掃を行うほか、子供たちが川の大切さを学ぶ「水辺楽校」を開催しています。



清掃活動が90回を超え、人口に膾炙かいしやするとともにボランティア参加者が増え胴長靴、刈り払い機などの装備の不足に悩まされていたが、LOVE BLUE 助成により、徐々に充足されつつある。また、清掃の責任者は、環境保護活動に貢献した人に贈られる山梨県制定の賞の受賞候補となっている。こうした成果も LOVE BLUE 助成の賜物と感謝している。



会長 飯野 正久さん

長 崎 県

やったろう de 高島

珊瑚ツーリズムの創造

- ・海浜海中の清掃活動 長崎市高島町（軍艦島に最も近い有人島）の海水浴場ビーチの清掃。シュノーケリングによる海中清掃活動
- ・啓蒙活動 地域の小中学校生および教諭と父兄を対象に出前環境保全講習を実施。海浜清掃の実践とお礼としてシュノーケリング体験メニューの提供をおこなった。
- ・珊瑚ツーリズムの創造活動 環境エコポイント制度の導入し海中清掃を実践した体験者のレベルアップと体験回数をカウントし無料体験提供に繋げた。



「LOVE BLUE 助成」を受けた事で生じた効果と成果
ソフト面の効果：地域住民、学校関係者、他の環境保護団体に対して、活動内容の信頼性を生み出す効果があった。
ハード面の効果：器材購入で、保全活動の時間的、労力的問題の劇的解決に繋がった。

＊最大の効果：活動を推進していく上で、LOVE BLUE が私達にとってのステイタスとなった。幟や横断幕を見た会員や参加者は誇りを持って活動に当たっていた。結果的に、人材育成の一翼を担った。LOVE BLUE 事業にご参加・ご協力されている皆様に、心から感謝すると共に、御礼申し上げます。



事務局長 小村 秀蔵さん

専門機関と連携した放流 ～放流事業の全国展開へ～



第3回海域栽培漁業推進協議会全国連絡会議・平成29年度栽培漁業推進全国会議（東京都千代田区 コープビル）

2013年4月の事業開始より2017年度まで、専門機関と連携した放流事業として、公益財団法人神奈川県栽培漁業協会へ事業委託し、釣り人の皆様に喜んで頂けるよう、毎年マダイ稚魚を神奈川県側の東京湾へ20万尾（5年間累計100万尾）放流すると共に、漁獲・釣獲の面から放流効果調査も進めて参りました。

この公的栽培機関と連携した5年間の放流事業の実績から「一定の海域・資源量を基礎にした放流量の指針」を得るとともに、栽培養殖に関わる公共機関との信頼関係を醸成することが出来ました。

このような背景を基礎に、2018年度から、全国各地の公的栽培機関との連携・協力体制を構築しながら、一定の海域・資源量等を踏まえた、『釣り人の皆様に喜んで頂ける、釣りに利活用できる魚種』の放流を各地で進めて参りたいと考えています。

そのため、まずはこれまでの実績と信頼関係を基に、2017年度内に、栽培事業に関する中央団体である「公益社団法人全国豊かな海づくり推進協会」へLOVE BLUE事業へのご協力を依頼させて頂き、そして、2018年1月30日に開催された、第3回海域栽培漁業推進協議会全国連絡会・平成29年度栽培漁業推進全国会議の場で、各都道府県の水産担当者や栽培機関の方々へ、2018年度からのLOVE BLUE放流事業へのご協力のお願いをさせて頂き、早速各地からLOVE BLUE放流事業への協力のお声をお寄せ頂いています。

2018年度には全国各地の専門機関である公的栽培機関と連携をしながら、LOVE BLUE事業の放流事業は徐々に全国展開して参ります。

放流に関する漁業者、釣り人の皆さんの声をお届けします。

2017年4月21日 遊漁船釣獲調査にて

<釣り人の皆さん>

- 東京湾のマダイの放流は知っているよ。放流マダイと天然マダイの違いは、鼻の形で見分けるんだよね。
- マダイが釣れるのは、放流のおかげだったんだね。だからこうしてマダイ釣りが楽しめるんだね。
- シーズン中は週1回のペースで(神奈川県横須賀市)久里浜沖(LOVE BLUEの放流地点)にマダイ釣りに来ているよ。「放流か天然か」あまり気にしないよ。マダイが釣れ、楽しめることが大事なんだよ。



<漁業者・遊漁船・釣り船店の皆さん>

- 横須賀市東部漁業協同組合久里浜支所長 鈴木良司さん
「久里浜で遊漁船をやっている釣り船店はすべて、真鯛を放流していることに感謝しています。自然の営みだけを頼りにした天然マダイだけでは、遊漁船は成り立ちません。久里浜沖にはマダイがいる。そういう風にみんなが認識できる状況がずっと続いていることがすごいことなんだよ。」
- 同 元支所長 榎本峯男さん
「久里浜の遊漁船は、LOVE BLUE事業が毎年久里浜沖に放流していることにとても感謝しているし、ありがたいと思っています。」



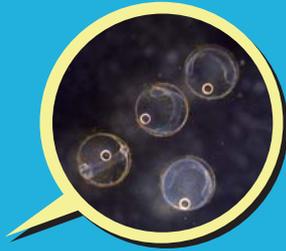
2015年12月9日 遊漁船釣獲調査(神奈川県横須賀市 遊漁船 ムツ六丸)

<釣り人の皆さん>

- 東京湾でマダイを放流していることはよく知っているよ。
- 放流を実施しているから、マダイが良く釣れるよ。たくさん釣れるとうれしいよね。
- 放流マダイは、大海を泳いでいるから、肉質がしっかりしていておいしいよ。養殖マダイとは味が違うね。丸ごと釜に入れて鯛飯にしたり、一夜干しにしたりしてもおいしいよ。
- 放流マダイと天然マダイの違いをどのように見分けるかについて、今日の調査まで知らなかったよ。天然マダイも放流マダイも海を泳ぎながら育っているので、あまり変わらないよ。

専門機関と連携した放流事業の流れ

1. 海に出るまで



(公財) 神奈川県栽培漁業協会の施設内の大型円形水槽で孵化及び育成

孵化後 1 週間

孵化後 5 週間



放流前に全長や重量、鼻腔隔壁の欠損等を調べる



約 2 ヶ月で約 60mm へ成長

4. 調査



市場調査



遊漁船調査



約60mm

放流で東京湾口へ旅だったマダイ達は
約 3 年で約 30cm
まで成長すると見込まれています



※原寸大

2013年度

2014年度

2015年度

2016年度

2017年度

2. 海での育成



円形水槽から海に設置された網イケスへ移動



定期的にはイケス網を交換し、防鳥ネットを使い外敵からまもる



3. 放流作業



活魚運搬船へ移動し東京湾口へ



放流地点よりマダイを放流



放流マダイと天然マダイ

放流マダイは、ほとんどの個体で、本来は片側に2つある鼻の穴が「鼻腔隔壁(びくうかくへき)の欠損」により、つながった状態になっています。これを目印に、漁業や釣り上げたマダイのウロコ等から年齢を調べています。

天然マダイ等では、鼻の穴は片側に2つあります。



放流マダイ



天然マダイ



約30cm

水産庁後援 つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業 ～ 内水面 釣り場拡大事業（ワカサギ）全国展開へ～

これまで、当工業会は、全国的に楽しめる入口の釣りとして、世代や個人・グループを選ばず、食べても美味しく、道具も比較的安価で、近年人気が高まりつつある、手軽な「ワカサギ釣り」を、LOVE BLUE 事業のうち、釣り場の拡大事業と位置付けられないかと、調査・検討を進めて参りました。

この間、水産庁をはじめ、国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 内水面研究センターや全国内水面漁業協同組合連合会から LOVE BLUE 事業へのご理解とご協力を頂きながら、2017 年度から「水産庁後援事業」として、全国に先駆けて、モデル事業となる、ワカサギ卵供給に係る初期設備（孵化施設）一式の物納支援を群馬県水産試験場と長野県水産試験場からの事業計画等を基に実施したところです。その後の運営等はそれぞれが主体的に進めて頂くことになっています。

この事業の推進により、多くの釣り人の皆様に喜んで頂ける、ワカサギ釣りの発展を契機として、全国各地の地域活性化などにも LOVE BLUE 事業が寄与できればと考えています。

2018 年度は本事業を全国各地で実施できるよう、まず、水産庁から国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 内水面研究センターと全国内水面漁業協同組合連合会



第 22 回ワカサギに学ぶ会（山梨県立図書館）

へ本事業の応募要領をご周知頂き、さらには同庁から全国各都道府県水産担当者へ。おなじく、国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 内水面研究センターからは全国各都道府県内水面試験場へ。また、全国内水面漁業協同組合連合会からは、全国各都道府県内水面漁業協同組合連合会へ、本事業の応募要領をご周知頂くことになっております。

2018 年度にワカサギ卵供給に係る初期設備（孵化施設）一式の物納支援を希望する都道府県・水産試験場・漁業者等からは、募集期間（同年 5 月 15 日（火）～ 6 月 29 日（金）まで）に応募要領に規定される一定の条件を満たす応募を受け付け、関係機関の協力を得ながら、厳正なる審査を実施し、同年 9 月頃には、当工業会が採択を決定することになっています。

2017年度モデル事業 群馬県 ワカサギ卵孵化施設 支援 第一号

2017年度

2017年度のワカサギ卵供給に係る初期設備（孵化施設）一式の物納支援第一号は、3月28日に群馬県水産試験場に実施されました。

群馬県水産試験場が取り組むのは、『設置型』のワカサギ卵孵化施設です。

現在、群馬県内の高崎市公営釣り場となっている鳴沢湖において、ワカサギ卵の供給を安定させることで、ワカサギ釣りへの来場者増加を目指すために、自湖産のワカサギによる卵生産への取り組みを一層進め、またゆくゆくは地域へワカサギ卵を供給することも目指すために、本事業から支援を受けたいとのご要望が事業計画として提出されました。

この事業計画に基づき、親魚捕獲網から自然採卵プール、並びに2連筒形孵化器の一式を鳴沢湖に設置し稼働が開始しました。これがLOVE BLUE事業による内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）の支援第一号となりました。

設置当日は鳴沢湖において、ワカサギ卵孵化施設設置除幕式が行われ、同日、高崎市役所において、富岡賢治 高崎市長から本事業に対する感謝状が授与されました。



ワカサギ親魚捕獲網



群馬県水産試験場 渡辺 峻 氏による施設の説明を受ける大村副会長と小島委員長



支援させて頂いた施設には、釣り人をはじめ会員企業並びに参加企業等の皆様のご理解とご協力のもと釣り関連用品の売り上げの一部を基に設置された旨が記載されたプレートが貼付されます。

鳴沢湖 除幕式における 当工業会 大村一仁副会長の挨拶

2017年3月28日(水) 群馬県高崎市鳴沢湖



施設除幕式の様子

○本日は、群馬県高崎市・鳴沢湖公営釣り場で、日本の釣り界が一体となって取り組む「つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業」をお役立て頂けるということで伺わせて頂きました。

○2013年にスタートした LOVE BLUE 事業は、現在、国内 250 社の釣り関連メーカー等が参加しています。

○本事業の仕組みは、国内で製造・販売される釣り道具のひとつひとつに環境・美化マークが表示されており、このマークの表示された商品の売上の一部を基にこの事業が運営されるというものです。

○LOVE BLUE 事業の一環として、この度、水産庁よりご後援を頂くことになりました「内水面 釣り場拡大事業（ワカサギ）」を、今年度にモデル事業として、長年ワカサギの取り組みを進めて来られた群馬県水産試験場により、鳴沢湖公営釣り場で本日よりスタートできるということを心より喜んでおります。

○この事業は、高崎市並びに、群馬県水産試験場からのご要望を頂き、ワカサギ卵を自湖産で安定供給することで、県内外から世代を超えた多くの皆様に、ワカサギ釣り場にお集まり頂き、釣って楽しく、食べておいしいワカサギ釣りを楽しんで頂き、ひいては高崎市のみならず圏域全体がより一層発展することを目的として、『ワカサギ卵孵化施設整備一式』を LOVE BLUE 事業として、全国に先駆けて、第一号の物納支援をさせて頂くことになりました。

○これにより、ますます鳴沢湖公営ワカサギ釣り場が発展し、その成功事例を基に、全国各地でワカサギ釣りがますます盛り上がることを心より祈念申し上げます。

○最後になりますが、本日を迎えるにあたり、水産庁をはじめ、群馬県、高崎市、群馬県水産試験場、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所 内水面センター、全国内水面漁業協同組合連合会等の皆様にご理解とご協力を賜りましたこと衷心より厚く御礼申し上げます。

2017 年度モデル事業 長野県 ワカサギ卵孵化施設 支援 第二号

2017年度

2017 年度のワカサギ卵供給に係る初期設置（孵化施設）一式の物納第二号は、3月30日に長野県水産試験場に実施されました。

長野県水産試験場が取り組むのは『可搬型』のワカサギ卵孵化施設です。長野県下ではワカサギ卵生産地から卵の供給を得ながら、新たにワカサギ釣り場としたい県下のいくつかの湖などに孵化施設を都度運搬し、順次ワカサギ釣り場を創設するために、本事業から支援を受けたいとのご要望が事業計画として提出されました。

そのため、長野県水産試験場の孵化施設はソーラーパネルとともに軽トラック一台程度で移動が可能な大きさや重量となっており、これが LOVE BLUE 事業による内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）の支援第二号となりました。

群馬県及び長野県のモデル事業にはワカサギ釣りの今後の発展の大きな期待が寄せられているとともに、それぞれの施設には、釣り人の皆様が「環境・美化マーク」の表示された釣り道具をお買い求めになった売り上げの一部を基に、設置されたことを示す銘板が取り付けられています。



LOVE BLUE 事業からの支援で設置された旨のパネル



軽自動車にも積載可能な可搬型の設備です



施設の全景

群馬県高崎市市長表敬訪問 ワカサギ卵孵化施設整備支援への感謝状授与式

2018年3月28日(水) 高崎市役所

LOVE BLUE 事業は、社会貢献事業として実施する水産庁後援、内水面釣り場拡大事業「ワカサギ」について、2018年3月28日、群馬県高崎市 富岡賢治 市長へ、同市鳴沢湖公営釣り場にワカサギ卵孵化施設一式設置のご報告及び御礼のご挨拶に、当工業会 大村一仁 副会長、小島忠雄 委員長、小松智昭 専務理事、柿沼清英 理事らが表敬訪問を行い、富岡市長より感謝状が授与されました。



左：富岡賢治 高崎市市長、中央：大村一仁 副会長、右：小島忠雄 委員長



和やかな談笑

～地元の活性化に役立つワカサギ卵孵化施設設置に感謝～

大村一仁 副会長 以下、大村副会長：本日は年度末のご多用の折、お時間を頂きましてありがとうございます。私どもは、一般社団法人日本釣用品工業会と申しまして、釣用品を製造する企業等で構成される全国団体に122の会員が所属しています。

本日、群馬県高崎市の鳴沢湖におきまして、ワカサギの卵の孵化施設を設置させて頂きましたので、ご報告と御礼のご挨拶に参りました。

まずこの事業は、水産庁後援「つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業 内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）」という事業として、全国内水面漁業協同組合連合会、国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 内水面研究センターからのご協力を頂きながら取り組む、内水面におけるワカサギの卵孵化施設設置事業です。「ワカサギ釣りが楽しめて、地域も元気に！」という事で、LOVE BLUE 事業として、ワカサ



大村副会長



富岡高崎市長

ギ卵孵化施設整備を支援致します。これにより、新たな釣り場の創出や、既にあるワカサギ釣り場が安定してワカサギ釣りができるようにしたいと考えています。

初心者からベテランまで幅広く楽しめるワカサギ釣りを、全国に先駆けて、ここ鳴沢湖を施設整備第一号として、今後、日本全国で多くの方にワカサギ釣りを楽しんで頂き、これに伴い、地域の活性化に資する社会貢献事業となればよいと考えております。

富岡賢治 高崎市長 以下、市長：本日は、鳴沢湖でのワカサギ施設整備の支援を頂きありがとうございます。今回の支援のお話を伺っております。ご存知の通りワカサギ釣りは、地元高崎市にとっても大きな収入源の一つになっています。地域経済の発展なども含めて、本当にありがたいです。

この感謝の思いから、高崎市として本日、貴会へ感謝状をお贈りさせて頂きます。

大村副会長：高崎市長、こちらこそ、社会貢献事業として実施する LOVE BLUE 事業を

地域活性化の為に、貴市でご活用頂きましたこと、心より厚く御礼申し上げます。また、感謝状も謹んで拝受致します。重ねて御礼申し上げます。

貴市への施設整備の経緯は、まず、本事業のご相談を国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 内水面研究センターへご相談させて頂いたところ、「全国に先駆けたモデル事業を実施するのであれば、長年ワカサギの研究をされている群馬県水産試験場からの技術指導を基に、貴市の公営釣り場である鳴沢湖で、ワカサギ孵化施設を整備が望ましいのでは」とのお話を頂き、併せて、貴市並びに群馬県水産試験場からも施設整備支援へのご要望を頂いたことが背景となります。私どもといたしましても大変ありがたいお申し出でございました。

～ワカサギ卵孵化施設への期待～

箕郷支所長^{みさと}：鳴沢湖におけるワカサギ釣りは、10月から翌年4月ぐらいまでがシーズンで、冬を盛り上げているところですが、今回ワカサギの卵孵化施設を設置して頂いたことにより、今年度以降のワカサギ釣りが一層活性化できるのではと大きな期待を寄せています。ご存知の通り、ワカサギは年魚のために、自然産卵または放流が毎年行われることが安定したワカサギ釣りにはとても大切なのですが、自然産卵は、量が少なく、今までは他地域からワカサギの発眼卵を購入し、毎年放流を行っていました。

市長：今回ご支援頂きました、ワカサギの卵孵化施設というのは具体的にはどのような仕組みになっているのですか。

小島忠雄 委員長 以下、小島委員長：鳴沢湖の流入河川から採捕したワカサギの親魚を水



小島委員長

槽に入れると、2日ぐらいで卵を産みます。この卵を今回の孵化施設で育成し、2週間ぐらい経過すると、卵に目が出てきます。さらに大きくなりますと孵化施設から鳴沢湖に放流されて行くという流れになっています。

市長：鳴沢湖で利用する卵は鳴沢湖内に生息する親魚の自然産卵ということであれば自然環境にも優しいということで良いですね。

小島委員長：その通りです。自然環境が何より大切だと私たちも考えています。その上で、より安定したワカサギの供給となりますと、今回のような孵化器等を利用することが望ましいようです。地元の皆様のご要望の通り、自湖産のワカサギでより一層安定的な釣り場の発展となることへお役立て頂ければと考えています。

市長：このようなワカサギの卵孵化施設を利用したワカサギの増殖の取り組みが各地でさらに進むと良いですね。是非頑張ってください。

大村副会長：鳴沢湖さんを皮切りに、2018年度からは、全国各地でお役立て頂ける社会貢献事業として取り組んで参りたいと考えています。本当にありがとうございます。

～釣り人の皆様へ感謝～

大村副会長：社会貢献事業として取り組む LOVE BLUE 事業には日本釣用品工業会の会員のみならず多くの釣用品メーカー等に広くご参加を頂いており、現在 250 社にご参加を頂いております。

今回の孵化施設の銘板にも表示してありますように、現在、釣り道具の一つ一つのパッケージに表示されている「環境・美化マーク（魚マーク）」付きの商品を、釣り人の皆さんがお買い求めになった売り上げの一部を財源として、この社会貢献事業が実施されています。おかげさまで5年目を迎えることが出来ました。

ワカサギの卵孵化施設支援のほかには、全国の海、川、港湾施設等の水中を清掃したり、水辺の環境保全を担う NPO 等を助成したり、各地で放流を行ったりしています。

2015 年には環境省から感謝状を頂き、2016 年には G7 伊勢志摩サミットと、2017 年・2018 年は全国豊かな海づくり大会へ貢献させて頂く形で、ご要望を基に、サミットや大会前に周辺の水中を清掃させて頂けるようになって参りました。お陰様で、全国各地から社会貢献事業実施へのご要望とともに少しづつ感謝のお言葉を頂戴できるようになって参りました。

市長：それはすごいですね。今回の鳴沢湖のワカサギ卵孵化施設にも多くの釣り人の皆さんにご協力頂いているという事なのですね。あらためてありがとうございます。

～地元の活性化について～

市長：現在、高崎市では地域経済の活性化へ「^{ぜつ}絶メシ」という取り組みを進めています。これは、高崎市内で、素晴らしくおいし

い絶品を出すお店だけど、実は絶えてしまいうさだ、後継者がいない、そういうお店をリスト化して SNS やネットに出すようにしました。これが大ヒットしまして、大きな経済効果につながったのです。ここにワカサギもぜひ紹介できると良いですね。ワカサギ定食！

一同：それは素晴らしいですね！是非ワカサギを地域活性化の芽としてご紹介頂けると良いですね。釣って食べて地元を盛り上げていく、継続的な事業になって頂けると大変ありがたいです。

市長：地元の特産物ができますね。ワクワクしますね。「鳴沢名物ワカサギ定食」。箕郷町（注：鳴沢湖の地名）の特産の梅と合わせて紹介できるとよいですね。箕郷町に行ったら、ワカサギ料理となるとよいですね。

箕郷支所長：今回のワカサギの孵化施設のご支援を好機として、地域としても取り組みを進めて参りたいと思います。

大村副会長：富岡市長、本日は、貴重なお時間とともに、感謝状を賜りまして本当にありがとうございます。

市長：こちらこそ地域振興に役立つ良い施設を設置頂き、本当にありがとうございました。



ワカサギ孵化器 施設支援 目録授与

日本の釣り文化の醸成と LOVE BLUE 事業の役割

今年の4月に第5次環境基本計画が閣議決定されました。環境基本計画は持続可能な社会に向けて国や自治体だけではなく、色々な関係者が取り組むべき方向の道しるべとなるものです。

この中では、わが国の自然に育まれた多様な文化的資源の活用、都市と農山漁村の共生・交流、エコツーリズムなど各種ツーリズムの推進などが取り上げられています。さらには、自然とふれあう機会が乏しくなっている現代の子どもたちに、「五感で感じる」原体験や自然を感じることのできる機会を提供することの重要性が述べられています。インターネットやSNSが広がり、バーチャルな世界にふける時間の多い若い世代こそ、本当の自然に直接触れるリアルな体験がますます重要になっているのです。快適で安全な釣り環境を作り、地域の自然や社会と調和した形で多くの人が体験できる釣り文化を醸成していくことは、まさに今回の環境基本計画の目指すところでもありたいと思われま



京都大学名誉教授
松下和夫

つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業が進めてきた「日本の釣り文化の向上」への取り組みは、2017年度もこれまでの実績を基に、政府主催行事への参加や全国豊かな海づくり大会への参画、更には水産庁後援事業の開始などもあり、社会貢献としての意義も含めて今後ますます重要になっていくでしょう。人口減少や高齢化、地域の衰退などが懸念される中で、若い世代や女性層へのアプローチ、地域の自然や社会・生業との調和、インバウンド旅行者など新たな層の巻き込み、IOTやAIなどの最先端技術の活用など、さまざまな新しい課題に斬新な発想で、引き続き取り組まれることを期待するものです。

公式FACEBOOK・公式ホームページのご案内

公式FACEBOOKでは最新の情報(水中クリーンアップ活動等)を配信しています。

公式ホームページでは自治体や地元からの生の声や、詳細な活動報告を掲載しています。

ぜひご覧ください。



FACEBOOK LOVEBLUE 検索

LOVE BLUE
FACEBOOK



LOVEBLUE 検索

LOVE BLUE HP
<http://www.loveblue.jp/>

